



從
心
社
新
歌
厚
玉
集
冬



能端古今類歌卷五集

乾坤

十月	初九	冬	冬	冬	冬	冬	冬	初九	十月
一	四	六	八	九	十	十一	十二	十四	十六
律	庚子	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬
二	五	六	八	九	十	十一	十二	十四	十六
小	玄	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬
五	七	七	八	九	十	十一	十二	十四	十六
二	五	七	八	九	十	十一	十二	十四	十六
小	庚	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬	冬
三	五	八	九	九	十	十一	十二	十四	十六



事始	貝燒	鐘水	寧月	雷年	冰	霜花	蟄星	霜月	干菓	乃中	湯藥
北一	北一	北一	北七	北七	北四	北三	北三	北二	北一	北九	北六
萬季維	生薑酒	豚	呀	師走	冰柱	霜柱	龍見世	冬至	切干	帚衣	袞
北二	北一	北一	北九	北七	北五	北四	北三	北二	北一	北一	北八
屠賣	玉子酒	豚	凍	寒入	擣	初冰	霜日和	子燈心	納豆	綿入	蒲卷
北二	北一	北一	北九	北八	北六	北四	北三	北二	北一	北一	北八
古屠	菓信	冰豆腐	鐘呀	寧夢	雷車	屠冰	嘉聲	袴着	風呂吹	足袋	綿帽子
北二	北一	北一	北一	北八	北六	北四	北三	北三	北一	北一	北九

初時雨	降	年夜	年尾	年漱	年市	豆打	玄奉令	年暮	春結	保蓮	葉竹羹
四十二	降	四十一	四十	北九	北八	北七	北七	北六	北四	北四	北二
時雨	物之部	年越	紅貝	年浪	擗乞	年豆	萬分	年婿	春近	衣祀	燗掛
四十三	物之部	四十一	四十	北九	北八	北八	北七	北六	北五	北四	北二
初霜		除夜	小晦日	餅卷	年飯	危掛	振着	年名跡	年忘	年用忘	礼納
四十四		四十一	四十	北九	北八	北八	北七	北六	北五	北四	北二
朔雲		除夜袴	大晦日	大年	年関	雜喉寐	過儀	年内之毒	行年	年木	餅搗
四十五		四十一	四十	四十	北九	北八	北七	北七	北五	北四	北四

冬

目二

夜霜	四十五	霜	四十五	冬雨	四十六	寒雨	四十六
雲	四十七	雪堂	四十七	雪成	四十七	冰雪	四十七
雪	四十八	霧雪	四十九	霧	五十	雪吹	五十
凜雪	五十一	雪見	五十一	雪佛	五十二		
神							
神送	五十二	神笛	五十二	神旒	五十三	神迎	五十三
冰	五十三	連	五十四	雨會	五十四	芭蕉	五十四
蜀	五十四	十夜	五十五	會式	五十五	冰	五十六
蛭子	五十六	吹	五十六	空也	五十六	鉢	五十七
佛	五十七	神	五十七	里	五十八	大	五十八
八	五十八	寒	五十八	念	五十九	佛	五十九
植物之部							

落葉	五十九	木	六十	荻	六十一	麥	六十一
落	六十二	枯	六十二	歸	六十二	山	六十三
葉	六十四	把	六十四	極	六十五	冬	六十五
枯	六十五	枯	六十六	枯	六十七	枯	六十七
葉	六十八	枯	六十八	枯	六十八	枯	六十八
枯	六十九	冬	六十九	石	六十九	八	七十
枯	七十	寧	七十	水	七十一	葱	七十二
冬	七十二	大	七十二	冬	七十三	早	七十三
冬	七十三	冬	七十四	冬	七十四	冬	七十四
冬	七十五	寒	七十六				
生類之部							
千	七十七	鶻	七十八	冬	七十八	冬	七十八
島	七十七	鶻	七十八	冬	七十八	冬	七十八

鶯子鳴	七十九	鶯聲	七十九	水鳥	八十	浮麻鳥	八十一
小鴨	八十一	鴨	八十二	霖	八十三	集溪	八十三
網代小屋	八十三	網代宮	八十四	氷魚	八十四	乾鮭	八十四
生海嵐	八十四	鱈	八十五	鮭鮭	八十五	飯	八十五
鱈	八十六	鯨	八十六	鯨突	八十六	暖鳥	八十六
寒若鳥	八十七	梟	八十七	未兔	八十七	凍蝶	八十七
冬鳥	八十八	冬鳥	八十八	夜鳥引	八十八	徳突	八十八
力州	八十八	鳥叫	八十八	鶯匠	八十八	鶯理	八十九
鶯特	八十九	鶯	八十九	混歌	八十九	雜詠	九十

約二百五十歌余

冬

目三

能譜古今類歌集

過日菴祖銀撰
融之受卜早校

冬之部

十月 十月や花さく石の目代ぬくこ 巴有
 十月やまのいしあつも日よつせり 便溪
 十月や理ちりりしの初うさま 蓬宇
 十月や何よ旅さる借むらり 宅崎
 十月や海へ久しき招め者 五浪
 十月の目うけりあう陽みさし 古棠
 十月や茨をうらふなりし 教 久棠
 十月や月のさし 入る州の菴 鶯巢

十月も葉やう色の垣根うり
 十月や多樞もあき山夜 砥
 十月や鶴の田は舞ふ朝日和
 十月や人のくまある梅の本
 十月や日のさく煙は味じらん
 十月や寝るころあきし水の音
 十月やさきもあきし春戸歩行
 十月や晴ちりやうる煙のやそ
 十月や空よあうてもおきろ
 十月のめくき日のさく松敷うり
 十月や一本まの 杉の月
 十月や葉やうのさくは在垣
 杜山
 相更
 祖作
 如
 乐山
 柳條
 椽堂
 魯川
 文貞
 荻里
 環里
 分字

神無月

十月や豆腐をあらぬ家のま
 降さうあやの日くせや神無月
 うらうらうのあきしや神無月
 葉よ木のさくあきし神無月
 雲のくさくさ雨よあきぬ神無月
 生葉のさくあきし神無月
 日さく神無月
 あきし神無月
 稚子のしる病もあきし神無月
 馬伝る里の日知や 神無月
 葉ののさくあきし神無月
 十月もあきし神無月
 庵
 津溪
 梅溪
 涼花
 相更
 雲村
 菅楠
 神無
 教傳
 五風
 友松
 借經一湖

小春

小春のしほの影ふもつゝの神喜内
お葉うゝもはなはなひらひら小春うめ
ぬき金のうらもきひあき小春は
晴しきまはく入施り小春うれ
又えりるる言れくの小春あき
鎌倉の名は尋るやもろくあ
津よりくく継書つゝ小春は
不二ちのきやも小春の日あれ
葉仕葉 堤のう人のやもろくあ
きのあく物をも垣あや小春あ
小春日や 柳のうらもくくは心衣
裸木ハのきもやうあ小春うれ

香文 洪山 左乙 秋柳 杉ま 標堂 野菓 其彭 古棠 文好 秋女 檮丸

遠くより海屋の日もつゝ小春うれ
雨をぬくもあき山の小春うれ
あきもあき小春の命やを下り
畑その末は根あき小春うれ
小春日や山まく山より下り小春の里
釣味あきあき小春の入りくあ
桂あきのお葉は掃く小春うれ
峰より月もえり日暮る小春は
一海一つを待せり小春うれ
里も煙をえりもあき小春うれ
夕空も名跡のうらもあきうれ
又のくく標をもえりも小春は

祖峰 祖丸 西篇 素屋 得基 有名城 静園 菊古 三子丸 桂水 五雲

初冬を討つる人もあつりしを
 ちつ冬や極末困る人もあつりしを
 初冬や後よむる人もあつりしを
 初冬の入日満るる時川よりあつりしを
 ちつ冬や紫もあつりしを極
 初冬を挿しきえつる時
 初冬やむらさきのあつりしを
 ちつ冬や起揚るる銀屋町
 ちつ冬や居るの度き八常あつりしを
 初冬や旭のあつりしを極の先
 初冬や市中通る納め米
 初冬や日さしぬき室の草

本公
 北遊
 藤崎
 山子
 兼月
 兼壽
 久榮
 菱里
 風栢
 武只 露明
 隆溪
 文起

亥ノ子

初冬やちつ冬あつりしを
 初冬も梅よぬきしをぬきしを
 初冬や人あつりしをあつりしを
 ちつ冬や雪のちつ冬あつりしを
 宵の雪をさしきしを思ふ亥の子
 級主の陰もあつりしを白ふ亥の子
 初冬や寝せまふ吐き亥の子
 旅よあつりしを亥の子
 贈塚の骸もあつりしを亥の子
 ちつ冬のちつ冬あつりしを亥の子
 ちつ冬あつりしを亥の子
 ちつ冬あつりしを亥の子

常明
 祖銀
 素月
 相丈
 葛里
 青侯
 油信
 露明
 ト早
 分字
 梅目

亥子餅

風

風や吹くくくたる山の空
さのししや羽を伝きて海なる
風やえあらしを宿の夕暮り
風や空をゆく浪の吹く家
風や西日中をくき葉畑
あつししこふさくさくく磯の砂
風や月の出をくらす日のく
あつししや羽を組むを畔の海
風や船はくくく水をく
さのししや岸くくく魚
くからくく一日ねくく松の夢
風や藪をくくく通すくく月の

呂 松 山 花 祖 杜 糸 綿 標 旭 環 文
松 山 花 祖 杜 糸 綿 標 旭 環 文
松 山 花 祖 杜 糸 綿 標 旭 環 文

冬

あつししやさくくく返るくく
風よむくくふきくくやねの窟
まのししは向くくくくくく
風や思をくくくくくくく
あつししや帯をくくくくく
風やさくくくくくくくく
あつししやまをくくくくく
風や垣をくくくくくくく
旅人へくくくくくくく
月が帯の光をくくくくく
冬をくくくくくくくく
雪のあつししをくくくくく

あや城 其 東 一 涼 北 九 成 立 山 雪 林
あや城 其 東 一 涼 北 九 成 立 山 雪 林
あや城 其 東 一 涼 北 九 成 立 山 雪 林

冬日

紫垣や朝日をさうきて冬雀
 冬深き山より小家の日知れ
 牛飼の猪喘もあきて冬の菜
 冬の日紅木の雪をけたるめき危
 冬の日や波もあて影も風もむき
 冬の日も只何とあて暮らさるり
 人も来て静よあやや冬の月
 冬の日波や樹の影竹影
 出汐も遠むのりりて冬の月
 出立焚炉よき一込や冬の月
 影うつさるるのさるる冬の月
 暮るるら命のあうて冬の月
 羊双 杜山 水竹 卜早 旭峰 襦袢 見お 山方 古棠

冬月

床へく家あてて冬
 叶まよもそそぬえりて冬の月
 冬の月さるる又上る雪の屋根
 こゝろのさるる紫木や冬の月
 推柴の燃てもさるる冬の月
 飛書の志つさるる冬の月
 何事あてつる雨戸や冬の月
 海を根よ降し山や冬の月
 筋堀よ家いさるる冬の月
 校申さるる何さるる冬の月
 夜静や情あつさるる冬の月
 風通る黒いさるる冬の月
 中 露村 末 篠 友 傍 旭 布山 秋 一 標 風

春もよきつら江も清なるや冬の月 芳古
 ちか〜の光うつるあ〜冬の月 梅月
 その凄きこの帯結る身〜冬の月 信長 忠義梅
 池もよき寝るの影や冬の月 梅月
 水もよき眠る〜冬の月 梅月
 志もよき〜冬の月 梅月
 巻もよき〜冬の月 梅月
 さ〜冬の月 梅月
 大川の空へあ〜冬の月 環里
 三日ふり〜冬の月 杜山
 穀をよ〜冬の月 下 出水
 降もよ〜冬の月 野棠

冬夜

雫の春や〜冬の月 三石 休布
 中〜冬の月 飛雪
 新踏り〜冬の月 手 桑原
 川雫の舞〜冬の月 高 良月
 冬の夜や〜冬の月 加茂良
 冬の夜も〜冬の月 清良
 冬の夜や〜冬の月 源吉
 冬の夜の果引〜冬の月 卜早
 冬の夜や〜冬の月 鬼一
 道の〜冬の月 隆一
 冬の田中や〜冬の月 五郎
 近江路や〜冬の月 一清

冬田

冬野
 冬野の田やふらふら
 冬野の田やふらふら
 冬野の田やふらふら
 冬野の田やふらふら
 冬野の田やふらふら
 冬野の田やふらふら

冬野
 冬野の田やふらふら
 冬野の田やふらふら
 冬野の田やふらふら
 冬野の田やふらふら
 冬野の田やふらふら

朽野
 朽野の田やふらふら
 朽野の田やふらふら
 朽野の田やふらふら
 朽野の田やふらふら
 朽野の田やふらふら

冬野
 冬野の田やふらふら
 冬野の田やふらふら
 冬野の田やふらふら
 冬野の田やふらふら
 冬野の田やふらふら

冬晒
 冬晒の田やふらふら
 冬晒の田やふらふら
 冬晒の田やふらふら
 冬晒の田やふらふら
 冬晒の田やふらふら

水涸
 水涸の田やふらふら
 水涸の田やふらふら
 水涸の田やふらふら
 水涸の田やふらふら
 水涸の田やふらふら

冬川
 冬川の田やふらふら
 冬川の田やふらふら
 冬川の田やふらふら
 冬川の田やふらふら
 冬川の田やふらふら

冬海
 冬海の田やふらふら
 冬海の田やふらふら
 冬海の田やふらふら
 冬海の田やふらふら
 冬海の田やふらふら

冬山

月入て見ざるうとや 冬う海 遠き
 日る西よさううとせううと冬う海 同月
 了鐘もしくとせううと冬う海 中世入
 暮る日のに空をうつせううと冬う海 有川
 そのまはれぬよすううと冬う海 知芳
 日のましくとせううと冬う海 康修
 冬一羽飛ぶよすううと冬う海 久景
 うううと冬う海 冬う海 正春
 月のけのせううと冬う海 再一飛
 樹の枝ゆり出せ風や冬う海 曉月
 細うらのせううと冬う海 義白
 一羽飛ぶよすうと冬う海 一湖

山眠

松風の中よ寝ありぬ磯の山 露山
 雨持て空のやまを山眠る 芳山
 常盤木よまねて山を眠る 法溪
 虎立中よまの寝ありぬ 彦貫
 朝夕の景持て山を眠る 枝鳥
 夕陽よ風あき日あり山眠る 雪隠
 夕陽よ風あき日あり山眠る 春雪
 月をまて見届る山の寝ありぬ 月忌
 田の水よ流るる山を眠る 久景
 眠り出せ山よ人のとせううと 法号
 松よ春跡よ山を寝ありぬ 曉月
 雪の田よ山を寝ありぬ 所由

炭竈

炭竈やあの手まきか止入せ
炭のまきかむる夜回りや山つり
まみかまのりあつてくやる中
炭竈や伝まのりあつてくやる中
炭のまきかむる夜回りや山つり
まみかまのりあつてくやる中
炭竈や伝まのりあつてくやる中
炭のまきかむる夜回りや山つり
まみかまのりあつてくやる中

標丸 静園 宇佐 青好 久榮 卜早 五飯 祖紹 一信 羊双 秋夢 九成

炭俵

あ焼あつてれよとて了炭俵
炭をうやまはくさくさくさく
炭買つて了らやまきや夜の菴
あつてや誰をまら夜の起る炭
炭をうやまはくさくさくさく
炭買つて了らやまきや夜の菴
あつてや誰をまら夜の起る炭
炭をうやまはくさくさくさく
炭買つて了らやまきや夜の菴
あつてや誰をまら夜の起る炭

一羽 菅丸 殊香 相史 白外 滴兮 九成 水竹 杜山 常明 重英 乙良

炭

炭團

推の葉も交りて白子粉炭は
炭つくと家ハ志をくくまる哉
炭つくとや何う降へて木の葉
ささげの葉も物後等の心で
炭の葉も物後等の心で
ささげの葉も物後等の心で
炭の葉も物後等の心で
ささげの葉も物後等の心で
炭の葉も物後等の心で

落山 梅日 控山 河石坂 中籠 竹登 香芸 理周 小籠人 己有 古棠 何亭

寒

長とあーさるや炭葉の竹の葉
日のあさる竹よあくる竹んうり
ささげの葉も物後等の心で
炭の葉も物後等の心で
ささげの葉も物後等の心で
炭の葉も物後等の心で
ささげの葉も物後等の心で
炭の葉も物後等の心で
ささげの葉も物後等の心で
炭の葉も物後等の心で

落山 蓮宇 杜山 控山 携影 旭 系空 卜早 如壽 九成 北産

冬構

日御をそ 鶴をよむ ちむささぎ
遠山の 入目もさむき 戸のうら
りゆき けしれ 燈をよむ 家をうれ
汲水よ 焚火のうらむ さむき けし
手と物を せむさむさむの 柳うらむ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
うらむ 戸のうらむ けしれ 燈をよむ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ

一宮
金英
法号
静山
静山
抱山
水休
祖風
米花
雪貞
好岳
梅月

冬籠

うらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ
雪のうらむ けしれ 燈をよむ 家をうれ

雪英
共彰
英年
古棠
卜早
静巢
尾村
左乙
一宮
素元
号白
破山

冬あそびのゆきあそびあそびのあそびあそび
かへりあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび

雪山
穢之
木公
涼名
秋名
草名
露名
祖風
水味
ト早

口切

あそびあそびあそびあそびあそびあそび
口切あそびあそびあそびあそびあそび
口切あそびあそびあそびあそびあそび
口切あそびあそびあそびあそびあそび
口切あそびあそびあそびあそびあそび
口切あそびあそびあそびあそびあそび
口切あそびあそびあそびあそびあそび
口切あそびあそびあそびあそびあそび
口切あそびあそびあそびあそびあそび
口切あそびあそびあそびあそびあそび

龍行
赤山
由文
由凡
双岳
兎川
素月
徐蘆
友甫
呂親
臺崎
尾雲

炉開

あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそび

尾雲

楮

伊豆の雪や澄もあまらまのふ
 煙昇き鏡は舞へ八雲の南はれ
 煙しきや峰の多き都 人
 炉のまきや木も湯をたぎら
 ぬくもや煙の掃除もあつら
 ぬくもや煙の掃除もあつら
 ぬくもや煙の掃除もあつら
 ぬくもや煙の掃除もあつら
 ぬくもや煙の掃除もあつら
 ぬくもや煙の掃除もあつら

花若 文起 夢里 梅二 吹簾 旭 鬼一 阿やき 大正 深子 山子 甘茶

囲炉裏

楮火

流る楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら
 楮火のまきや 壺あまら

旭 月 馬 苜 楮 象 青 志 素 社 東 都

火桶

相火桶

まきく又は目くろ馬や楯つろく
 裏釜よりつる楯火のゆりりゆり
 楯の字を焼くゆりりゆり半釜
 をりやりのあつたのまき楯火
 ともな居るゆりりゆり楯火
 色くゆりゆりゆり相火桶
 をりゆりゆりゆり相火桶
 焼火のまきゆりや相火桶
 麻を度よ灰もあつる相火桶
 その書る半時よあつる火桶
 楯の字を焼くゆりや火桶
 後よりゆりゆりゆり老の火桶

ハ之
 中鉢
 見外
 飛付
 豊川
 由磐
 白外
 塩漆
 苜蓿
 龜成
 雪負
 火水

火鉢

目くろくへ脊中をむき火桶
 赤くゆりゆりゆり火桶
 色くゆりゆりゆり火桶
 舟ゆりゆりゆり火桶
 相火をゆりゆり火桶
 焼火ゆりゆりゆり火桶
 赤火ゆりゆりゆり火桶
 その焼くゆりゆり火桶
 色くゆりゆりゆり火桶
 飛付ゆりゆりゆり火桶
 豊川ゆりゆりゆり火桶
 由磐ゆりゆりゆり火桶
 白外ゆりゆりゆり火桶
 塩漆ゆりゆりゆり火桶
 苜蓿ゆりゆりゆり火桶
 龜成ゆりゆりゆり火桶
 雪負ゆりゆりゆり火桶
 火水

芦月
 梅二
 古棠
 白外
 真雪
 内飛
 豊川
 鳥之
 卜早
 由磐
 穂市
 梅二

巨燧

持あんと相いそく古火練うぬ
孫の子を誦くめあつら火練うぬ
聖およほ深業持く身そ火揃うぬ
自分より早下し居るそ揃うぬ
家引の火練うぬや富の深
日ら居のぬくそ 深き空練うぬ
老の孫り一孫へまゑるあつらぬ
巨燧のりあそを孫とあつらぬ
まをくむ孫の時空あつらぬ
山の月をそまて遠く巨燧うぬ
結縁を自らもあつらぬ巨燧うぬ
ぬくをそあつらぬあつらぬ

常晴
梅庄
梅庄
素庵
梅軒
東堂
招泉
徐風
卜早
東花

置巨燧

寝轉く形うよあ事け巨燧うぬ
ちあもあつらぬあつらぬ
く強そ空そあつらぬ巨燧うぬ
ち美を居るあつらぬあつらぬ
寝轉く子を居せつ事け巨燧うぬ
新りあ巨燧うぬあつらぬ
巨燧のり寝孫手つきぬあつらぬ
あつらぬあつらぬあつらぬ
横よあつらぬあつらぬあつらぬ
手遠きあつらぬあつらぬ
日のうあつらぬあつらぬ
窓の月あつらぬあつらぬ

雪山
義白
魯川
鹿行
子歩
李朔
臨市
知芳
新巢
事招
素月
杜山

埋火

次の字へのひびく煙のや星巨帷
埋火よあつたも老の壁棄うれ
埋火や何ふあつたも老の壁棄うれ
埋火や何ふあつたも老の壁棄うれ
埋火や何ふあつたも老の壁棄うれ
埋火や何ふあつたも老の壁棄うれ
埋火や何ふあつたも老の壁棄うれ
埋火や何ふあつたも老の壁棄うれ
埋火や何ふあつたも老の壁棄うれ
埋火や何ふあつたも老の壁棄うれ

影如
たよめ
とぬめ
旭峰
霜雪
易后
産舞
秋夏
葉居
信候
得之
儿后

温石

湯婆

衾

温石やりのひ義理何る墓 活
温石や風の何れ壁に壁しとく
温石や月も日もいそぐぬ
試の終つら 那らる 湯婆くれ
おーうのりあつたも老の壁棄うれ
鶴喜よふあつたも老の壁棄うれ
まら無もあつたも老の壁棄うれ
事の時り漢子よあつたも老の壁棄うれ
さあ切を志すよあつたも老の壁棄うれ
海の青空をえり 冠る ふさよふ
引くも衾よ月のひかりうめ
此のうらなむもあつたも老の壁棄うれ

朱花
晴風
朱種
泰山
久業
卜早
西院
空窓
阿茶
文貞
ぬ規
峰風

蒲團

旅のうらみありし旅寐のふきまふ
婦人よ馳走のありしやあふまふ
目のさくらんぬきまふや残る
さうまふや花のほろふまふ
うらみ寝て目覚めのうらみ
若狭の旅のふきまふ
あ合よ旅のまふ舟のやう
月夜の遠のまふや蒲團
若狭のまふや旅のまふ
一かゝるやまふのまふ
費火のまふやまふ
破是の一寸のまふ

晩寝
徐産
若古
乐山
文好
の篇
乙良
かほら
芳山
羊双
急旋
夜竹

世よやまふらんやと布ふらん
布ふらんやまふらん
雨ふらんやまふらん
上り端をまふらん
寝るまふらん
板よ入り風まふらん
中よ入り手まふらん
寝るまふらん
屋中よ入り手まふらん
まふらん
引くまふらん
海山のまふらん

床
尾村
梅暖
一屯
籠布
ト早
飛雪
和風
若山
冬相
の篇

綿帽子

引はれし風の青字布帯りれ
唯よなまゝにまゝに後之うまやん
布帯若くは履きより何の字板
舟にても抱了をまゝ布帯
志のまゝにたたまのまゝ綿帽子
まゝまゝにえんくまゝや襦袢
年若くは若きものよ志を
志若くは若中ぬく度あり
まゝにまゝに白髪にまゝに
あまののまゝにまゝに
門へ出まゝにあひ付る
まゝにまゝにまゝに

葉壽
花外
知芳
法号
心星
木富
祖紹
茶里
淨芦
五雲
花乙
山子

頭巾

庭若くは人柄まゝに頭巾りれ
こゝろにまゝに頭巾りれ
頭巾若くは世をまゝに
末摺の頭巾りれ
出まゝにまゝに
枯蓮のまゝに
居候りまゝに
人柄にまゝに
まゝにまゝに
帯若くは若くは
左の若くは若くは
まゝにまゝに

若古
孫重
附石
羊双
徳号
立樹
旭
花海
露明
淨重
之交

紙衣

雨の音を若んよる紙衣うれ
 若る居せらおのつゝ如襟帯名代
 身の障よ茶のぬよあのかさあうれ
 紙よ若せらあよよふ帯名うれ
 けつゝあゝ紙衣よあせえん若せえん
 水合ゝる帯名やほつゆつゝあ
 綿入やをくせえんあゝる若公あ
 綿入や帯の若えん若水合ゝき
 足袋履了あゝああを思ひあ
 白足袋や若のうゝあゝああ
 あゝあゝ足袋よゝあゝあゝあ
 物日めく若や一連けゝあ足袋

其山 浮海 久菜 水越 糸行 産時 涼花 心星 新歩 荃里 産岐

綿入 足袋

足袋よあゝあゝあゝあゝあゝあ
 振ふゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
 若き風もて茶よあゝあゝあゝあ
 釣ゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
 若き壁のちのゝあゝあゝあゝあ
 一長つゝあゝあゝあゝあゝあ
 若いゝあゝあゝあゝあゝあ
 紙を若よあゝあゝあゝあゝあ
 若る茶よあゝあゝあゝあゝあ
 若のゝあゝあゝあゝあゝあ
 若椽やあゝあゝあゝあゝあ
 切干ゝあゝあゝあゝあゝあ

羊双 双岳 蟻走 分字 志野 涼衣 山子 李茶 芳古 河家 若衣

于菜 掛菜 釣菜 切干

納豆

切布の中より交る木の葉り乳
皆人の春のまのや納豆汁
引ゆや初きありの納豆羹
憐らら芳福くく納豆汁
やあまの酒の尾や納豆汁
納豆よぬくそく履く多鞋く乳
は夏かの披衣も色了納豆汁
葉火やう家のまのや納豆汁
風呂吹や土地のら登る柳の辺り
風呂ふきや此は酒の味り
風呂吹や葉火のゆる酒り宮
風呂ふきや何う降やう夜の類

子侍
高明
杜松
布山
徐蓮
山子
常負
双岳
臺岐
津溪
勇突
庫角

風呂吹

霜月

冬至

風呂吹や雁討分あつの一催し
霜月や甲のまのま末ねら
あま月やうまの種日まの風
霜月やうまのまのま日和風
霜月やうまのまのま海も名
あま月やうまのまのま冬も名
山里のまのまのま冬も名
鉢の梅咲く葉のつ冬も名
けり人の物ありの冬も名
朝のふきくまのまのま冬も名
暮れ霜の初まのまのま冬も名
雪のゆきくまのまのま冬も名

白外
正壽
末岐
新南
祖紀
秋岸
曲儿
分言
尾村
石島
茶之
冬松

山に花の影を映しけり
 掃く掃く花の影を映しけり
 山に花の影を映しけり
 掃く掃く花の影を映しけり
 山に花の影を映しけり
 掃く掃く花の影を映しけり
 山に花の影を映しけり
 掃く掃く花の影を映しけり
 山に花の影を映しけり
 掃く掃く花の影を映しけり
 山に花の影を映しけり
 掃く掃く花の影を映しけり

子燈心

袴着

鬘置

顔見世

霜日和

袴着や
 鬘置や
 顔見世や
 霜日和
 袴着や
 鬘置や
 顔見世や
 霜日和

事柄
 五月
 文書
 西文
 勇気
 正書
 赤紙
 布山
 五子
 加法良
 信侯
 常晴

霜聲

野多くや岬ハれり——日利
 浦里やうくま何なる霜日利
 沼底やまもまらうま霜日利
 おうまら霜ハふきうま霜の夢
 燈火のふきうま霜の夢
 結露世の霜もこうほし霜の色
 おくまら霜の色も霜の色
 海草やぬハぬきうま霜の色
 立ちまらう——後まらう霜の色
 旅立の勢や戸口も霜の色
 飛雪まらう——山も霜の色
 山城まらう月も霜の色

杜山
 新野
 一裁
 涼花
 冬松
 性水
 是海
 祖紹
 李東
 一何
 在法

三

霜花

霜柱

初氷

薄氷

霜の柱ハ一葉もまらう霜柱
 岬のまらう町のまらう霜柱
 蕙のまらう結露の相や霜柱
 木のまらう——霜柱
 樹のまらう霜柱
 霜のまらう——霜柱
 人のまらう霜柱
 をまらう霜柱
 いらまらう霜柱
 遠きまらう霜柱
 うくまら霜柱
 そのまらう霜柱

和風
 坡石
 東所
 霜月
 風松
 花海
 弓吹
 梅司
 雪曉
 松泉
 蓬岐

氷

稲穂やふゆをまきそとらせまわり
 押す氷のあそびの暮や鳥の氷
 凍まて庭のけのふりうり
 法世くよまるや各町の氷
 氷の流るるをいふもうま
 雪ちりまのまきやんて氷うり
 さきまをまきそとの氷あつ氷
 氷の灯のまきまき氷の氷
 まるはめをまきまき氷の氷
 樹の枝に氷つきまき氷
 月のまきよまきまき氷の氷
 控へ海の氷つきまき氷

几屋
 祖師
 五宝
 東種
 李末
 白介
 梅泉
 春堂
 帯崎
 夫木
 和好
 深若

廿四

意入るまのまきおの氷うり
 まいゆや氷のうりまき氷
 まいゆまきまき氷の氷
 曜のまきまき氷の氷
 氷のまきまき氷の氷
 目のまきまき氷の氷
 房のまきまき氷の氷
 風の吹くまき氷の氷
 まきまき氷の氷
 日よまきまき氷の氷
 氷のまきまき氷の氷
 星影のまきまき氷の氷

文好
 梅司
 秋女
 志野
 麦舟
 舟骨
 環里
 岩月
 岩親
 油法
 岩月
 岩月

水柱

砂の根や類し字一揮の音
吹之を風もらやなき水柱うね
水柱もまきしきり雨僅し
壁をまきりやうま水柱は
大泊りまきし体一はらり
おんをまきしきり水柱は
うら風や水柱の類のまきし
深の根のまきし水柱うね
くまきりし水柱うね
まきしきり水柱うね
まきしきり水柱うね
まきしきり水柱うね

涼谷
三希
魯川
古棠
、
片骨
足川
菅唐
双岳
、
布山
希希

水柱

根

根や非代よ根のまきし
根や戸口をまきし山根
根やまきし水柱うね
根やまきし水柱うね
根やまきし水柱うね
根やまきし水柱うね
根やまきし水柱うね
根やまきし水柱うね
根やまきし水柱うね
根やまきし水柱うね
根やまきし水柱うね
根やまきし水柱うね
根やまきし水柱うね
根やまきし水柱うね
根やまきし水柱うね

素山
久榮
素月
、
己良
壺波
控山
雪貞
穉市
若古
下早
澄溪

雪車

兄と弟とを撮りて其のまき撮りて
橋や建へて下りしし葉のゆき
雪車引の煙のらまの雪のまき
見はるるる清き雪車の花物
旅人や力よやくる 雪車の
一寐のりて目さす ぬ雪車の
落る目をりてぬ雪車のまき
ゆき雪のまきを撮りて夜の雪車
降りてゆく雪車引糸の天幕
雪車降りてゆく雪車引糸の天幕
静寂の年よりきりて雪車のまき
雪車降りてゆく雪車引糸の人

雪山
峰風
素叶
雪古
錦袋
蟻を
古棠
玄子
有川
貫三
雪岳
急雄

六六

雪竿

雪車引や上手のまき 下り坂
さう引や机を目當のまき 谷
雪竿の糸より糸あきゆく 旭
雪竿やまきのいさく 雪の遠き
物ありぬ 雪や目より 雪の竿
雪竿よむと息つてや 市をゆく
雪竿やまきの 橋の ぬき
雪竿や松風止む 雪のまき
雪竿やんよきあき 月夜に
雪竿やぬき 雪のまき 夜に
雪竿やぬき 雪のまき 夜に
雪竿やぬき 雪のまき 夜に

操堂
双岳
旭
雪岳
一池
如松
松山
峰風
橋二
祖師
雪岳

師走

師走の雪も市もまき 師走の

雪岳

世をよみし師走も春ぬ新橋は
 雪もよも時走あつらふは越よの州
 時走よふあり人よ常の寝起す
 寝つゝ雪の人は時走を時走す
 人はよのよも時走のあふりなり
 市に市を雪や時走の鐘の音
 その雪よふ時走の門たゞく時走す
 舟は時走の時走も舟の舟手強
 買ふものゝ時走ゆりゆり時走す
 時走よふあつらふ人のおりなり
 舟の雪は山雪のよも時走す
 雪のよも時走の山雪の時走す

新雪
 雪盛
 折よめ
 完時
 時司
 山雪
 峰風
 環里
 分字
 折山
 雪折
 社山

寒入

追風よもよも安き師走なり
 市の町はよも時走す時走す
 何れせぬ時走すも時走なり
 時走す人よも時走す
 時走り師走も時走す
 人のおりなり時走の焚火くれ
 川雪の雪も時走す雪の
 今さらも時走すや雪の
 けふもや人の雪も雪の
 雪もつゝ雪の雪も雪の
 日暮も雪も雪の雪も雪の

水竹
 吹雪
 雨漏
 祖風
 文好
 雪花
 一也
 出月
 折條
 雪堆
 尾村
 若山

寒聲

三日月も出さず何れも空や空の入
 空入や遠き空のきき夜も人
 清むを空人石二をさる日や空の入
 空際よ海又をさるや空の入
 口々々路のものをさや空の入
 空り家も水解つ空の空の入
 空ぬらしたるの静も空の空の入
 空新や海世よりつる天の川
 空空や舟の空の空の空の立
 空空や何れもその空の空の空
 空空や月をさる一法は後の橋
 空空や木戸も空の空の空の空

何亭 山方 甘蔗 一法 又貞 升重 空山 空海 空和 空字 空川 空新

寒月

空空や舟の人よもあめら海
 空空や月影をさるぬ向川岸
 空空よ空の柏子何れ浪の空
 空空や二階もよも吹さる
 空月や空の空の空の空の上
 空月や空の空の空の空の上
 空月や空の空の空の空の上
 空月や空の空の空の空の上
 空月や空の空の空の空の上
 空月や空の空の空の空の上
 空月や空の空の空の空の上

素月 席角 古棠 龜成 空溪 油信 小空人 素月 徐蓬 九成 鬼一

冴

凍

空月や大のぬ希り根撒垣
 空月や如くふくまぬまき川
 空月や提うき小指灯
 冴やまきまきあう井のひらけ
 冴る夜やゆるゆゆるの耳ふ
 冴きつて星まきくせは残の月
 まきまき夜よりあう月もあう
 まきまき夜やまきの影もあう
 更まきまきのつしや月冴る
 冴る夜やまきまき斗星の板
 冴る夜やまきまき斗星の板

和風 号船 席角 唯風 苦山 几屋 梅司 英年 勇賀 加は良 兜琴

鐘

鐘

明曇る夜は凍くくゆ曇る水
 凍る夜やをくく替のあう
 山をのまきまき照きく
 凍る夜やまきまき斗星の板
 冴る夜やまきまき斗星の板
 遠いまきまき斗星の板
 冴る夜やまきまき斗星の板
 冴る夜やまきまき斗星の板
 冴る夜やまきまき斗星の板
 冴る夜やまきまき斗星の板

嵩山 柳條 峰風 如親 一法 篤之 月名 一裁 徐風 素山 赤雲 由凡

胼

けり燈を消せハ字え了鐘氷る
 其骨
 夜の雨の夜然うちを水々鐘氷る
 川堂
 うらぬよむのふあや眼の足
 米花
 顔ふぬぬ孫や泣くき業の世を
 穰市
 手のひらや舟の波を焚く可き
 何亭
 孫の事よ焚く可きあをを松葉ふ
 大氷
 高きくや所顔ふぬぬ孫の孫
 徐蓬
 孫やうきよのうらるるは約瓶
 雪山
 親をよまふ孫を焚く可き世を
 正壽
 孫の事よ焚く可きあをを松葉ふ
 蒼鳥
 何の事や立あうらふぬぬ
 浮溪
 孫や寝るころあをく盛りの穴
 芳古

眠

氷豆腐

庖丁のみえ了氷る豆腐うれ

鬼一

貝焼

あやせ豆腐や舟の事うらう

祖結

貝焼や舟の事顔の言うら

五雲

貝焼や白し隣をよ孫 時

産信

貝や焼く左う孫手の孫任うれ

曲几

片の世の火鉢はうらや生姜 酒

祖結

新らよき茶碗あうらや生姜 酒

林亭

病ふしや家の籠をやせうら酒

程周

城をよらふの事や玉子酒

怪風

宵くや一人手物の玉子酒

河や城

玉子酒あま了茶あうれうら

あ蕭

玉子酒

生姜酒

藥喰

入る風の身よまむ 膏や玉子海
 風船引や寐あな 一よの玉子海
 そのふとふとよいもき 菜 喰
 おとし控思ひまを 一とくさる喰
 庵ら灯も一留のうらや 菜 喰
 さやひそ友を誘ふや 菜之喰
 疾まき 日を幸よとくさる喰
 ふき味もさくあきわとく 菜 喰
 寐んもあまの 一夜やとくさる喰
 年とあまの 船やとくさる喰
 梅はさき喰や庵のやとくさる喰
 さるさるも船の若入る 幸をさる喰

久栄 双岳 碧巢 智函 梅二 浮芦 分字 穠市 氏骨 家明 乐山 号紹

事始

節季候

と物人よまむ 菜をさるさる 事始め
 つきうらる目うらみの 細さるさる
 夕衣吉徳のやうきやあまのめ
 出らぬうら控せぬ 朝や暮季候
 暮季候や柳をさる飯 一とく
 其名をいさる 暮さる 暮季候
 めとくさるのうらあま 暮や暮季候
 小鳥さるのゆらさる 暮や暮季候
 所はきき 石もえむさる 暮さる
 秋らさるのさるさる 暮 暮
 是よりさる上子の 下りさるさる
 雲町もあま 暮さる 暮さる

尾村 卜早 峰風 末花 穠市 碧巢 心星 卜早 近嘉橋 鳥川 象雄 正雲

曆賣

古曆

辻立工やきしむえり厲う里
 目くさうのぬつぬ顔や厲 亥
 けくいた仕舞お近あう古 厲
 身の隈や又くう之とあ厲
 老の身能く成ありふや古きみ
 何もくもきむや厲の巻をさめ
 兄もわりの日もまくけくよ古厲
 身もまやめくけく教や葉叶賣
 釣竿のやぐくもけく葉叶う里
 若くうも美ききくや葉叶賣
 此雪のけくくまき葉叶 賣
 若むけくもきくもけく 挿

桂陰 新洲 蓮宇 心屋 表傳 林弓 一相 乙良 葉白 雷山 祖風 山雪

葉竹賣

煤拂

念よ急いけり手扱や煤 挿
 隈も身もんもせり煤をい
 けく挿や隣ハものよきけく
 此とろのえんき目知や煤をい
 まき挿や和風をさゆけく
 煤を起し和のけくけきや雨の音
 和呂賣よけくけくけく挿
 若く挿や和のけくけくの月
 用もふき酒座の多きけく
 若く挿よ隣もあけけく
 けくけく美けくあけけく
 けくけくけくけく 札 納

溪溪 葉后 序角 控山 文魚 梅咽 淨芦 古棠 迎妻橋 龜竹 久榮 叶香

札納

餅搗

餅のうね多しと申され納
 旭
 山にしろくをくは餅一餅の青
 蓮交
 皮を搗の始終を妻のまじり
 巧やを
 餅をくく隣らうをハ明より
 祖風
 もち搗や膏痛もまんと人の青
 代候
 餅の青多しと申され納
 穂市
 餅つきや敷の付りといさく
 高傳
 蓮戸や敷子くく餅の青
 ぬ山
 餅つきや今と言ふ手付を世
 素朗
 餅つきや福よりくくま土大根
 芦月
 餅つきや下の子の信了一つ
 双岳
 餅つきや下の子の信了一つ
 尾村

餅庭

衣配

年用意

年木

衣配
 餅庭
 衣配
 年用意
 年木

春待

花をよみてよみよ又待とてよみぬ
 隣り同士勝つるあはれふ年木は
 日ゆくよみは口梅ゆきよよみぬ
 浦町や春木よ換ふ息の福
 大勢了年木をよみてよみぬ
 ちかぢかよみよ年木めつぬやつよみぬ
 月雪の中よ春木つちかぢかよみぬ
 春木よよみよ春木つちかぢかよみぬ
 春木つちかぢかよみよ日教ふ今かよみぬ
 春木つちかぢかよみよ起やよみぬ
 春木つちかぢかよみよ宿の春木よみぬ

孫風 芦月 宿明 山岳 水山 花山 草里 宿溪 晚宴 見川 勇笑

春近

春木つちかぢかよみよ春風は戸のよみぬ
 春木つちかぢかよみよ春風は戸のよみぬ
 春木つちかぢかよみよ春風は戸のよみぬ
 春木つちかぢかよみよ春風は戸のよみぬ
 春木つちかぢかよみよ春風は戸のよみぬ
 春木つちかぢかよみよ春風は戸のよみぬ
 春木つちかぢかよみよ春風は戸のよみぬ
 春木つちかぢかよみよ春風は戸のよみぬ
 春木つちかぢかよみよ春風は戸のよみぬ
 春木つちかぢかよみよ春風は戸のよみぬ

遊里 春池 新山 柳山 山翠 水山 春木 杜松 春木 双岳 山翠

年志

この日一日の事... 年志... 梅... 己... 山... 由... 素... 携... 知... 尾... 素... 一... 号... 泉

行年

行年... 梅... 尾... 休... 末... 末... 穂... 素... 祖... 一... 様... 環

年暮

梅... 尾... 休... 末... 末... 穂... 素... 祖... 一... 様... 環

年惜

年をむらさきとまらさきとまらさきと
灯の板を踏く年を惜まらさき
さくらさくらさくらさくらさくら
うさぎさくらさくらさくらさくら
あつたさくらさくらさくらさくら
り灯の油をさくらさくらさくら
をむらさきとまらさきとまらさきと
年用意さくらさくらさくらさくら
年の名残さくらさくらさくらさくら
よきさくらさくらさくらさくら
あつたさくらさくらさくらさくら

杜山 月忌 尾村 贈儀 くらめ 冬初 春宵 蓬宇 秋景 雪室 冬信 秋景

年名残

年内立春

夜更さくらさくらさくらさくら
昔もさくらさくらさくらさくら
湯煙縁さくらさくらさくらさくら
冬の寒さくらさくらさくらさくら
年の内残さくらさくらさくらさくら
雪の備さくらさくらさくらさくら
年の内寒さくらさくらさくらさくら
年の内寒さくらさくらさくらさくら
歳よめさくらさくらさくらさくら
去年今年 さくらさくらさくらさくら
り灯の油をさくらさくらさくらさくら
昔もさくらさくらさくらさくら

小子 孫泉 兄川 春信 梅南 海を 水 文起 末勝 梅司 文起 雪信

節分

於差

昔分や人の通せしむるの雷
 祖 祖 祖
 口より手を引てくる空をよみ
 下 早
 さしとくをやくや極を空の上
 唯 風
 極さしとくをやくの夕へ丸
 涼 花
 余はよ夕夕飯をの追儼う所
 席 角
 空をよみとくをやくの追儼う所
 夢 雲
 唯の素のそつとくをやくの追儼う所
 石 鳥
 豆をすけ力のそつとくをやくの追儼う所
 福 命
 折豆の 穀よみとくをやくの追儼う所
 昔 山

追儼

豆折

半豆

厄拂

雜喉寐

灯のつらぬき豆うり社
 豆折る後さつとくをやくの追儼う所
 大粒をさしとくをやくの追儼う所
 夢のそつとくをやくの追儼う所
 車をさしとくをやくの追儼う所
 折のそつとくをやくの追儼う所
 人の中や人の追儼う所
 穀よ折をさしとくをやくの追儼う所
 唯のそつとくをやくの追儼う所
 折のそつとくをやくの追儼う所
 さしとくをやくの追儼う所

文 貞
 媛 豆
 久 学
 甘 茶
 北 折
 葉 素
 祖 須
 唯 風
 素 山
 南 信

年市

おのゝとて買きたる年市
市に出入るも年市
東の市も——く申人にも
燈明もくせしを去る年市
人畜も買きたる年市
いぬの買きたる年市
灯籠も買きたる年市
中も買きたる年市
日くせく買きたる年市
冬も買きたる年市
秋も買きたる年市
掛乞は買きたる年市

鬼一
廟々
蓮交
梅咲
水仙
雪室
雪室
雪川
得之
名芳
卜早
麦冬

掛乞

年坂

年坂をいへる雪の中へ
掛乞もさききりしや巨無寺
うけ乞も出せしや室の坂
西の乞も出せしや室の坂
うけ乞も出せしや室の坂
降法も雪の中へ
梅の坂も雪の中へ
西の坂も雪の中へ
市の中も雪の中へ
東の坂も雪の中へ
西の坂も雪の中へ
東の坂も雪の中へ

車
久保
又起
雪出
崎歩
未曉
徐風
かき良
西風
柳泉
、
星城

年関

年瀬

年浪

年の際や雪のけらけらの聲もそそ
才よううそのもまろそそ年の浪
り方のみ響けり年の浪の浪の浪
年浪のうらやまろそそ遊うう日
さあけようそそそそそそそそそ
人の中へ年の浪の浪の浪の浪
餅もや控りたつるり控りたつ
そそそそそそそそそそそそそそ
餅もやそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそ
餅もやそそそそそそそそそそ
餅もやそそそそそそそそそそ

素山 岸松 栞泉 坐風 席角 素月 雪負 山子 唯風 素月 花海 猿泉

餅花

大年

大年の雪をゆきゆきや綿やまろ
大年や海の小るるるるるるる
大とりの星や年々えぬ人の上
大年や夜のうらやまろそそそ
大年のそそそそそそそそそそ
やの尾のそそそそそそそそそ
年の尾やそそそそそそそそそ
年の尾やそそそそそそそそそ
人より強きうらやまろそそそ
隣りうらやまろそそそそそそ
知りうらやまろそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそ

梅通 書英 五海 北極 涼風 蓮亭 東信 月泉 号鏡 素月 智函

年尾

丘見

小晦日

夕陽の影をたらしめたる丘をうれ
 去らばし月日の影をさや晦日
 去らばし月日の影をさや晦日
 小晦日影をさや晦日
 今知るやふ一日や大いそら
 夕陽の影をたらしめたる丘をうれ
 去らばし月日の影をさや晦日
 大いそら下戸の影をさや晦日
 日のおちの影をさや晦日
 一とせの影をさや晦日
 橋の影をさや晦日

大三十日

夕陽の影をたらしめたる丘をうれ
 去らばし月日の影をさや晦日
 今知るやふ一日や大いそら
 夕陽の影をたらしめたる丘をうれ
 去らばし月日の影をさや晦日
 大いそら下戸の影をさや晦日
 日のおちの影をさや晦日
 一とせの影をさや晦日
 橋の影をさや晦日

年夜

坐安と申す暮の影をさや晦日
 秋の影をさや晦日
 年の夜や燈の影をさや晦日
 年の夜の影をさや晦日
 ういそら下戸の影をさや晦日
 年の夜や燈の影をさや晦日
 年の夜の影をさや晦日
 ういそら下戸の影をさや晦日
 年の夜や燈の影をさや晦日
 年の夜の影をさや晦日
 ういそら下戸の影をさや晦日
 年の夜や燈の影をさや晦日

年越

年の夜や燈の影をさや晦日
 年の夜の影をさや晦日
 ういそら下戸の影をさや晦日
 年の夜や燈の影をさや晦日
 年の夜の影をさや晦日
 ういそら下戸の影をさや晦日
 年の夜や燈の影をさや晦日
 年の夜の影をさや晦日

除夜

年の夜や燈の影をさや晦日
 年の夜の影をさや晦日
 ういそら下戸の影をさや晦日
 年の夜や燈の影をさや晦日
 年の夜の影をさや晦日
 ういそら下戸の影をさや晦日
 年の夜や燈の影をさや晦日
 年の夜の影をさや晦日

除夜鐘

大に鐘の聲ききしは除夜の鐘
をきくも亦さき除夜の鐘に
是も是も除夜の鐘の聲に
出雲の鐘も除夜の鐘の聲に
母もさき除夜の鐘の聲に
除夜の鐘もさき除夜の鐘の聲に
近きも遠きも除夜の鐘
除夜の鐘の聲も除夜の鐘の聲に
灯の明も除夜の鐘の聲に
除夜の鐘の聲も除夜の鐘の聲に
雪もさき除夜の鐘の聲に

友松 鈴菓 轟石 油漬 菜山 好岳 崎西 橋泉 南原 巨推 徐風 杜山

混題

除夜の鐘の聲ききしは除夜の鐘
をきくも亦さき除夜の鐘に
是も是も除夜の鐘の聲に
出雲の鐘も除夜の鐘の聲に
母もさき除夜の鐘の聲に
除夜の鐘もさき除夜の鐘の聲に
近きも遠きも除夜の鐘
除夜の鐘の聲も除夜の鐘の聲に
灯の明も除夜の鐘の聲に
除夜の鐘の聲も除夜の鐘の聲に
雪もさき除夜の鐘の聲に

祖紹 花海 勇聖 蟻足 高傳 甘茶 遊里 佳風 素月 芹介 山方 鈴菓

初時雨

空の白くも亦さき初時雨の聲
をきくも亦さき初時雨の聲に
是も是も初時雨の聲に
出雲の初時雨も初時雨の聲に
母もさき初時雨の聲に
初時雨の聲もさき初時雨の聲に
近きも遠きも初時雨
初時雨の聲も初時雨の聲に
灯の明も初時雨の聲に
初時雨の聲も初時雨の聲に
雪もさき初時雨の聲に

去るもや日暮のトをさるる雪
 降くまうさうさあさあや夜去る世
 時ふるや富士の裾生く人の心
 若信端く説くらさるる去る世これ
 常盤木や時を過すをさるる雪
 そのさあのみさるるあさるるさるる
 雪さるるや極輝よあさるる燭の火
 去るもやあさるる梅よさるるあさるる
 さるるさるる交うさるる極や降去る世
 雪うめの日をふさるるの時雨の如
 何さるるよ波のうめや又去る世

雪山
 号紹
 小春
 甘蔗
 梅遠
 竹よめ
 志静
 江三
 苗江
 尋香
 東重
 島之

降去るもや日暮のトをさるる雪
 降くまうさうさあさあや夜去る世
 時ふるや富士の裾生く人の心
 若信端く説くらさるる去る世これ
 常盤木や時を過すをさるる雪
 そのさあのみさるるあさるるさるる
 雪さるるや極輝よあさるる燭の火
 去るもやあさるる梅よさるるあさるる
 さるるさるる交うさるる極や降去る世
 雪うめの日をふさるるの時雨の如
 何さるるよ波のうめや又去る世

梅遠
 乙良
 号金
 小通
 梅合
 文帯
 文好
 川信
 号教
 号榮
 梅二

ためらふを渡り木の根をたぐりて
叶のたや風をうつさよふてくせ
ねいさへり暮るはよき時るうれ
あくるをらん徳希のそへい山
いふひねむきう 家並やお時る
まきまや指勢りぬろ 一ひ
さのまをたふきまは磯のほろり
かきころりや庭木よつてくせ
川をよつてくせ ねむるまをくせ
内大臣御時 けつろくあき時る白
風やまらふらふらふまきせき
庭 一坊よりあかひくそろり夕時る

鳥居 五箇 内鹿 飛鳥 片遣 一宮 組風 小笠人 守英女 秋女

初霜

きりぎりすをまきせりふい月夜うれ
あふくまや湖を横きりまの音
あすうまもたけのそらにくせ代
初霜のけしきふくをきまらぬ
秋志をやるのめりてふまらぬ
まらふをりやまらふのねきまらぬ
初霜や川をくせりてふ田の稻
まらふまらふはまきまらぬ
はらふ初霜まらふまらふまらぬ
初霜や戸を引まらぬはよきまらぬ
時をまらふまらぬまらぬ
馬士のたけまらぬまらぬ

鳥居 双岳 弘明 赤崎 右根 双岳 山岳 菅家 英彦 管城 志月 由凡

朝霜

馬士のたけまらぬまらぬ

由凡

夜霜

静かなる夜の静けさ
あふく月さく星きらり
を照らす秋の夜更け
秋風のそよ風も
を吹く秋の夜更け
静かなる夜の静けさ
あふく月さく星きらり
を照らす秋の夜更け
秋風のそよ風も
を吹く秋の夜更け

芦月
尾村
外重
龍雷
秋夕
物月
由雲
苜丸
卜早
稻俣
徳子
ぬね

霜

今宵は霜おこす
あふく月さく星きらり
を照らす秋の夜更け
秋風のそよ風も
を吹く秋の夜更け
静かなる夜の静けさ
あふく月さく星きらり
を照らす秋の夜更け
秋風のそよ風も
を吹く秋の夜更け

抱華
森太
中絶
梅日
五具
雪英女
涼香
席角
大水
さゆめ
言ほ

冬雨

春うき馬引霜の小帳丸
子ふくろ旅人立ぬきりの霜
うき霜や吹く風より雪の色
寐之世の顔よあけり管の霜
稻穂の芽も青くもり冬の色
寒くもあつ油砂を少ぬの雨
寐る世のいろり降る冬の色
を此世の降る雪あり冬の色
相乗る馬も年ふり冬の色
何れもよき世もあつ冬の色
ぬくもき世もあつ冬の色
降る世の世の古世もあつ冬の色

寒雨

甘茶
一裁
只堆
休布
志静
休堂
徐蓬
旭坊
涼石
石泉
かたはら

雲

某福の一留志のうき雲の雨
炭の出れうき雲より雲の色
降中よき雲あり雲の色
山寺や掃除仕上り雲の色
昔の紫衣入江よ雲の色
うき雲も大根もあつ雲の色
叶程喰ふ雲もあつ雲の色
うき雲もあつ雲の色
降る雲もあつ雲の色
雲のいろり雲の色
雲のいろり雲の色
雲のいろり雲の色
雲のいろり雲の色

雪空

一屯
環望
乙良
心星
旭
祖紹
友相
足川

雪成

雪の成るに雪の成るに雪の成るに
雪の成るに雪の成るに雪の成るに
雪の成るに雪の成るに雪の成るに
雪の成るに雪の成るに雪の成るに
雪の成るに雪の成るに雪の成るに
雪の成るに雪の成るに雪の成るに
雪の成るに雪の成るに雪の成るに
雪の成るに雪の成るに雪の成るに
雪の成るに雪の成るに雪の成るに
雪の成るに雪の成るに雪の成るに

標影
素月
双岳
一洞
赤英
文窓
石井
左乙
之ぬ女
新島
迎真橋
桂陰

初雪

初雪の備りもあしき
初雪の備りもあしき
初雪の備りもあしき
初雪の備りもあしき
初雪の備りもあしき
初雪の備りもあしき
初雪の備りもあしき
初雪の備りもあしき
初雪の備りもあしき
初雪の備りもあしき
初雪の備りもあしき

岩種
旭
初風
双岳
茶室
茶台
泉池
得之
長芸
正良
樹石
春雪

雪

雪の上 一室
静居
在尔
静居
雪山
双岳
希有

雪の上 一室
静居
在尔
静居
雪山
双岳
希有

雪の上 一室
静居
在尔
静居
雪山
双岳
希有

雪の上 一室
静居
在尔
静居
雪山
双岳
希有

雪の上 一室
静居
在尔
静居
雪山
双岳
希有

山の鐘はりのりや雪の雪
 舟のうへえりあそび雪の馬
 雪はむや大桶をけり雪の足
 ふよるを雪ふり雪の雪
 吹つ風の雪より雪の雪
 雪の目やうき茶茶碗の持人
 降りうむ雪や門口の雪
 雪の雪の雪の雪の山
 うもやも雪の雪の雪
 雪造りよ雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪

冬松
 馬足
 以足
 北山
 山方
 茶古
 柳條
 湘雪
 杜松
 浮芦
 新山

粉雪

霰

一々の霰を雪の雪の雪
 糸のうしろに雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪

理周
 標記
 足川
 墨芳
 雨兮
 文兵
 寺僧
 雲村
 李補
 号記
 秋景
 茂月

雪吹

雨ゆゑにあはれしよのそら風の音
 飛ぶもハヒラきあめつらき雲の
 雲の身はなほそらに吹きわたる
 木の葉も枯れしききこへるあめ
 手よのせしききこへるあめ
 目を海へ入りしききこへるあめ
 ああきり飛ぶしききこへるあめ
 あらと雲のつらきあめ
 門戸やわらわしききこへるあめ
 木の葉もなほそらに吹きわたる
 雨のうらやみしききこへるあめ
 まつとつらきあめ

美津
 雲霞
 篠風
 泉湖
 壺子
 柳糸
 素月
 浪浪
 石鼻
 旭峰

深雪

門へてあけしききこへるあめ
 木の葉もなほそらに吹きわたる
 雲の身はなほそらに吹きわたる
 木の葉もなほそらに吹きわたる
 木の葉もなほそらに吹きわたる
 木の葉もなほそらに吹きわたる
 木の葉もなほそらに吹きわたる
 木の葉もなほそらに吹きわたる
 木の葉もなほそらに吹きわたる
 木の葉もなほそらに吹きわたる

巨推
 臨市
 晴月
 未曉
 山夏
 李浦
 荜角
 急燈
 久堂
 尾村
 友相
 一宣

神留守

稗史の別を定めて神留守
 空の神を定めて神留守
 木の神を定めて神留守
 水の神を定めて神留守
 火の神を定めて神留守
 土の神を定めて神留守
 風の神を定めて神留守
 雷の神を定めて神留守
 雲の神を定めて神留守
 雨の神を定めて神留守
 雪の神を定めて神留守
 霜の神を定めて神留守
 氷の神を定めて神留守
 霧の神を定めて神留守
 霞の神を定めて神留守
 露の神を定めて神留守
 霜の神を定めて神留守
 雪の神を定めて神留守
 氷の神を定めて神留守
 霧の神を定めて神留守
 霞の神を定めて神留守
 露の神を定めて神留守

養馬 森右 素木 品雄 文起 森守 何守 木公 野守 森英 杜山 波石

神旅

神の留守を定めて神留守
 空の神を定めて神留守
 木の神を定めて神留守
 水の神を定めて神留守
 火の神を定めて神留守
 土の神を定めて神留守
 風の神を定めて神留守
 雷の神を定めて神留守
 雲の神を定めて神留守
 雨の神を定めて神留守
 雪の神を定めて神留守
 霜の神を定めて神留守
 氷の神を定めて神留守
 霧の神を定めて神留守
 霞の神を定めて神留守
 露の神を定めて神留守
 霜の神を定めて神留守
 雪の神を定めて神留守
 氷の神を定めて神留守
 霧の神を定めて神留守
 霞の神を定めて神留守
 露の神を定めて神留守

井屋 素木 二帛 森守 文起 木公 号家 儀名 文英 養馬

神迎

時雨會

逢て馬や... 時雨を... 芭蕉忌... 翁忌... 翁忌や世の言...

翁忌

芭蕉忌

一 游... 柳... 北... 林...

翁目

翁忌や世の言... 翁目... 十夜... 十夜...

十夜

彦英... 徐風... 文貞... 遊里... 理周... 葎岐... 原花... 如親... 信任... 布山

會式

初のしを 髪結を 穿る十夜は	梅 修
赤い紙 我まを けし十夜は	骨 室
おぼろの 舟もあはる 十夜は	夜 修
千のしを 舟もあはる 十夜は	水 燈 人
西のしを 舟もあはる 十夜は	梅 月
舟のしを 舟もあはる 十夜は	完 崎
遠くまを 舟もあはる 十夜は	双 岳
梅 陰の 舟もあはる 十夜は	系 燈
火を舟の 舟もあはる 十夜は	去 燈
舟の舟の 舟もあはる 十夜は	卜 早
浦くよ 舟もあはる 十夜は	涼 花
正會式 舟もあはる 十夜は	結 袋

御命講

蛭子講

さしづめ 舟もあはる 十夜は	舟 風
信濃の 舟もあはる 十夜は	由 凡
正命 舟もあはる 十夜は	甘 茶
舟人 舟もあはる 十夜は	尋 志
正命 舟もあはる 十夜は	一 光
結 舟もあはる 十夜は	若 山
舟 舟もあはる 十夜は	飛 雷
舟 舟もあはる 十夜は	若 里
舟 舟もあはる 十夜は	旭
舟 舟もあはる 十夜は	大 山
舟 舟もあはる 十夜は	心 燈 人
舟 舟もあはる 十夜は	真 會

吹草祭

怪子操 鐘を上 吹よ 吹よ 吹よ
吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ
吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ
吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ
吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ
吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ
吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ
吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ
吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ
吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ 吹よ

杜 杜
下 下
象 象
務 務
曉 曉
北 北
古 古
格 格
梅 梅
由 由
中 中

空也忌

鉢叩

月より 鉢を 叩く 鉢を 叩く
鉢を 叩く 鉢を 叩く 鉢を 叩く
鉢を 叩く 鉢を 叩く 鉢を 叩く
鉢を 叩く 鉢を 叩く 鉢を 叩く
鉢を 叩く 鉢を 叩く 鉢を 叩く
鉢を 叩く 鉢を 叩く 鉢を 叩く
鉢を 叩く 鉢を 叩く 鉢を 叩く
鉢を 叩く 鉢を 叩く 鉢を 叩く
鉢を 叩く 鉢を 叩く 鉢を 叩く
鉢を 叩く 鉢を 叩く 鉢を 叩く

梅 梅
石 石
露 露
水 水
竹 竹
松 松
旭 旭
和 和
尾 尾
象 象
芳 芳

御講

神樂

之形歌の歌を奏する神楽の
 歌の形もまた月夜を去り叩
 いふはさしとては海の大空を
 正宗方てあそびてあそび海
 面ら〜はあそびの神楽の
 史の歌〜はあそびの神楽の
 形も〜はあそびの神楽の
 黄史〜はあそびの神楽の
 史の〜はあそびの神楽の
 面元〜はあそびの神楽の
 笛の〜はあそびの神楽の
 川柳〜はあそびの神楽の

双岳
 只
 甘菜
 木公
 梅令
 事松
 弘湖
 重然
 亮行
 立後
 一
 晩宴

里神楽

夜神楽

大師講

孫子〜はあそびの神楽の
 名歌〜はあそびの神楽の
 人史〜はあそびの神楽の
 里神楽〜はあそびの神楽の
 節の〜はあそびの神楽の
 夜神楽〜はあそびの神楽の
 夜〜はあそびの神楽の
 夜神楽〜はあそびの神楽の
 寺の〜はあそびの神楽の
 小原女〜はあそびの神楽の
 名歌〜はあそびの神楽の

之昂
 雪負
 持下
 秋岸
 祖心
 古棠
 穂市
 月
 師雲
 林馬
 古棠
 赤法

臘八

法之世く人さあうる大脚讓 曉 鐘
 白足袋よともけ侍のや大脚讓 藤市
 臘ハ也 臘うらうらう 親のうら 霞傳
 臘ハ也 所ハ 茶粥よよまくし 和更
 臘ハ也 雪よふ 風もあきやう 様堂
 臘ハの 夜ハ 雜子のあくと 卜早
 臘ハの 寺よあまより 麓う寄 蒼馬
 寒垢離や 法き彩いそ 蓮空
 ちうくも 寒垢離にう 陸の寺 尾村
 寒垢離や あらうら 世も 池の月 蓮交
 べんきあや 家のと 籠子の 掃子あ市 慈山
 雪ぬけよ 寺のちうら 寒垢離 金英

寒垢離

寒念佛

四ッ世や人のさきをさる 寒念佛 久菜
 知己とよの影をさる 寒念佛 井布
 川さるのさるのらさる 寒念佛 株馬
 月雪のたき 寒念佛 水堂
 夜よさるのらりう 寒念佛 尾村
 少事や 早よ 夜をさる 寒念佛 篤之
 土和 寒を 風よさる 寒念佛 一
 舟人 也 舟よさる 寒念佛 穉市
 寒人 也 寒よさる 寒念佛 高傳
 ちあきうら 鐘字 舟よ 寒念佛 篠風
 おう 年ハ 寒のちうら 寒念佛 初芳

御仏名

多る御を慕ひさむる空高仏	牛堂
朝夕まじりの燈一や西佛名	晚翠
字人も年いしものくま御仏名	乐山
佛名會集するくつさき勤めたり	土具
佛名よ只に記しき山家うけり	高僧
ひまのて落葉まよふる日知りて	高僧
ちうんくまの福いさるる落葉小	迎妻橋
ふきあんとふよおろくく落葉小	比美
夢うけるまねやあつた日暮る	常晴
寺の名も写るまよふる落葉うれ	土後
落葉集何れもさるまよふ山家小	杜山
極の口よやうまるる風の落葉小	双岳

落葉

爰にまほほの戸口の落葉うれ	久栄
山家くまのまよふるまよふ	乐山
叶跡を秋まよふる	由登
まよふるまよふるまよふる	務家
あつる葉のうら表けり	古英女
あつるまよふるまよふる	秋世
あつるまよふるまよふる	友南
あつるまよふるまよふる	号如
あつるまよふるまよふる	雷山
あつるまよふるまよふる	吉月
あつるまよふるまよふる	号室

木葉散

おちりし葉の雪や花ふきの雨の音
 ぬき持し付るより一葉紫うれ
 落葉一を屋の音もさるりあり
 ぬきおちる音も戸の音もさるり
 ちり落るよ日の入跡も木の葉に
 あり積る雨も通るぬ木の葉に
 下枝や神のさけ音もさるり木の葉
 雨の流る音もさるり木の葉
 空を去る音もさるり木の葉に
 木の葉もさるり音もさるり木の葉に
 空を去る音もさるり木の葉に
 空を去る音もさるり木の葉に

芳山 古棠 飛雪 祖江 奈屋 暮年 未曉 茅月 巾布 昇湖 吉屋 蛙水

散紅葉

初りちりささやもさるり木の葉に
 木の葉もさるり音もさるり木の葉
 池の水もさるり木の葉を写すあり
 空を去る音もさるり木の葉に
 人をもさるり音もさるり木の葉に
 空を去る音もさるり木の葉に
 空を去る音もさるり木の葉に
 空を去る音もさるり木の葉に
 空を去る音もさるり木の葉に
 空を去る音もさるり木の葉に

志野 扇々 在糸 甘菜 松練 山子 橋二 宮村 吉月 晴月 様登 石屋

色一日をおそくハアハア花々お花
 見ゆく毎六夕月のまをるお花
 煙さるりのの流すやちるをくち
 手より糸を捻ひひらひらちるお花
 意海よちる船つきや花々をを
 めををハ降るのよあちるお花
 生初る日の昇りき麦のうら
 麦をまぐけけうまをけけけけ
 山写や麦まぐけけの目けけけ
 麦お花や 風よあちる日産と
 新婦おちる麦まぐけけの心あハ
 新婦おちる麦ハ麻おちる細うら

文好 初者 赤空 赤空 青花 卜早 梅月 青花 木石 只燈 一燈 麦信

麦時

さぬ新う休をまあハ麦 畑
 若坊もあまをまあハ 掃りの家
 そま川よの風けけけ 穀子うら
 日和まをふまを川まぐけけの麦
 とけけけけけけけけけけけけけ
 ねけけけけけけけけけけけけけ
 ちけけけけけけけけけけけけけ
 ちけけけけけけけけけけけけけ
 若者おちる 刻をて一日 畑 畑
 若者おちる 刻をて一日 畑 畑
 若者おちる 刻をて一日 畑 畑
 若者おちる 刻をて一日 畑 畑

几反 水山 水山 水山 水山 水山 水山 水山 水山 水山

蕎麦刈

枯柳
 枯れぬはまを 柳うら

柳うら 柳うら 柳うら 柳うら 柳うら 柳うら 柳うら 柳うら 柳うら 柳うら

枯柳

枯葉 日中	よろする 流せけ	井屋
さけのしき 松を 隣りて	うせ 柳	露山
ほろま 柳を	をを 柳	旭
枯	柳	毒害
おろ	柳	鬼一
たを	柳	勇賀
の	柳	希希
名を	柳	梅經
咲	柳	風林
え	柳	和好
帰	柳	砂山
お	柳	文貞

歸花

復る	花	村
日	花	芦月
能	花	祖風
月	花	孫蓮
去	花	義白
平	花	蒼馬
論	花	井屋
と	花	几屋
目	花	左乙
と	花	迎橋
名	花	の 篇
之	花	梅 信

山茶花

赤く秋のさしゆくもや帰るを
 をめたるそく色をあらうとて
 著しくちしきく燈ぬらうとて
 山茶花や燈の中住る家梅
 山茶花やくまの影もさぬ古
 山茶花やまきくく燈のぬくこ
 山茶花や燈のあま日の橋
 山茶花や燈のまきく日のまき
 あつる日のまき山茶花のまき
 山茶花や燈のまきく日のまき
 山茶花や入日のまきく燈のまき

葉石 常晴 梅月 麦香 嘉文 柳九 浮草 和好 秋女 祖和

茶花

山茶花や咲く秋のつらまき
 山茶花やまきくく日のまき
 山茶花のちる燈のまきく
 山茶花のまきくく日のまき
 人だえて茶のまきくく日のまき
 茶のまきくく日のまき
 茶のまきくく日のまき
 茶のまきくく日のまき
 茶の花や燈のまきくく日のまき
 茶のまきくく日のまき

信溪 双岳 嵯市 秋岸 乙良 狂松 嘉文 文起 龍行 秋岸 為心

茶のちや十日もはるく候きつり
 茶のちや十日もはるく候きつり
 茶のちや十日もはるく候きつり
 茶のちや十日もはるく候きつり
 茶のちや十日もはるく候きつり
 茶のちや十日もはるく候きつり
 茶のちや十日もはるく候きつり
 茶のちや十日もはるく候きつり
 茶のちや十日もはるく候きつり
 茶のちや十日もはるく候きつり

枇杷花

宝様の御成り候きつり
 日影のちや十日もはるく候きつり
 日影のちや十日もはるく候きつり
 日影のちや十日もはるく候きつり
 日影のちや十日もはるく候きつり
 日影のちや十日もはるく候きつり
 日影のちや十日もはるく候きつり
 日影のちや十日もはるく候きつり
 日影のちや十日もはるく候きつり
 日影のちや十日もはるく候きつり

若く
 左抵
 芦月
 常晴
 一室
 夕篇
 夢烟
 泉坂
 若山
 社領
 若池

何處も日暮りて遊ふ枯壁うれ
るまじり人のちひなき枯壁草
陽春のこころをうらむ枯壁原
けぞはうらみあり流るうらむ壁
高く上月を照らすうらむ壁
こころ折を連の空に枯壁
風ささく枯壁の果也星の月
新まをりてあま枯壁色清変宿
暮りせぬうち月澄枯壁うれ
懐きく舟もて遠きうらむの聲
新よ敷持心家や枯壁に
こころ長びきと家もて枯壁に

羊双
空曉
暮古
柔石
糸郎
雪山
飛雪
友和
木公
芳山
西馬

遠里も紅のうらむうらむ壁うら
ぬらの枯るさへけむ壁面うら
けりるを馬の鳴くうらむ壁に
新よ品白しくうらむ壁うら
夜ささくうらむ壁うらむ壁
けりるをうらむ壁うらむ壁
うらむ壁うらむ壁うらむ壁
暮りしけりる日の暮りる枯壁うれ
暮りしけりる日の暮りる枯壁うれ
馬のこころ澄きくあけ枯壁うれ
雨ささく枯壁のうらむ壁うら
暮りしけりる日の暮りる枯壁うれ
名もりるのけりる枯壁の暮る

旭峰
暮山
木松
王子
吟成
儿長
一
南隆
迎春橋
得之
林鳥
荻里

枯蓮

うきくーしきよほよ山のそをき
温水を根よーしきくも。枯蓮うれ
り先よ雨のそりーしききう水
風きくもちりーしきき一枯蓮は
枯くーしきよーしきき化の蓮
うき蓮也根よのしりーしきき
枯蓮よまふーしきき雨
ききーしききーしきき
かーしききーしきき
枯蓮ようしきき一枯蓮は
根よちりーしきき一枯蓮は
根よ枯よ根よーしきき

梅暖
智幽
杜山
石影
多相
卜早
窓の
梅二
仰極
弓川
心壽
希命

枯菊

ふ却くの色はくーしきき
うきこれハ揚々癖きーしきき
根よ枯よ一枯き一枯の萩
陣雨のききき一枯き一枯
根よ枯よ一枯き一枯の萩
枯よ枯よ一枯き一枯の萩
今降るるも一枯き一枯の萩
うき日の根よ一枯き一枯の萩
川形くーしきき一枯き一枯の萩
うきの畑よ一枯き一枯の萩
うきもや一枯き一枯の萩
うきもや一枯き一枯の萩

大水
高海
木高
征征
九成
只権
和相
一室
志静
うね
梅影
大石

枯萩

枯芒

枯芦

ふ却くの色はくーしきき
うきこれハ揚々癖きーしきき
根よ枯よ一枯き一枯の萩
陣雨のききき一枯き一枯
根よ枯よ一枯き一枯の萩
枯よ枯よ一枯き一枯の萩
今降るるも一枯き一枯の萩
うき日の根よ一枯き一枯の萩
川形くーしきき一枯き一枯の萩
うきの畑よ一枯き一枯の萩
うきもや一枯き一枯の萩
うきもや一枯き一枯の萩

大水
高海
木高
征征
九成
只権
和相
一室
志静
うね
梅影
大石

<p> 枯尾花 一葉ふくむし一虫也やう世尾花 舟一りそと知るも一枯尾花 可なりつるあまき枯一尾花は 髪のみりやくきそもあや枯尾花 古きもらう路さそんやう世尾花 さうさかりしきりへさき一枯尾花 あまきの枯一うせし尾花これ 雨の石枯さそん枯る尾花 枯尾花ふふくも一旅のきさうか ぬく心目のさきそんもけり枯尾花 枯尾花あひ付くはつるも一 枯尾花ふふくもさめしあつり 一 </p>	<p> 五 五 梅 二 冬 羊 卜 標 木 逸 心 </p>
<p> 五 五 梅 二 冬 羊 卜 標 木 逸 心 </p>	<p> 五 五 梅 二 冬 羊 卜 標 木 逸 心 </p>

枯菰

枯尾花

一葉ふくむし一虫也やう世尾花
 舟一りそと知るも一枯尾花
 可なりつるあまき枯一尾花は
 髪のみりやくきそもあや枯尾花
 古きもらう路さそんやう世尾花
 さうさかりしきりへさき一枯尾花
 あまきの枯一うせし尾花これ
 雨の石枯さそん枯る尾花
 枯尾花ふふくも一旅のきさうか
 ぬく心目のさきそんもけり枯尾花
 枯尾花あひ付くはつるも一
 枯尾花ふふくもさめしあつり
 一

五 五 梅 二 冬 羊 卜 標 木 逸 心
 五 五 梅 二 冬 羊 卜 標 木 逸 心
 五 五 梅 二 冬 羊 卜 標 木 逸 心

冬草

折るよりの二つのつきー尾をぬぐれ
掃く葉をそぎのまをうや枯尾を
露にこれゆふ草をうやう枯をそぎ
あまのちのまきもさあー冬の州
冬州やあまのちのまきもさあ
庭のまきもさあやふふ草をうや
葉のまきもさあやふふ草をうや
長きまきもさあやふふ草をうや
石をぬぐくやえつめや尾をぬぐの降
庭のまきもさあやふふ草をうや
はまのまきもさあやふふ草をうや
あまのちのまきもさあやふふ草をうや

折るよ 掃く葉 露にこれ あまのち 冬州 庭のまき 葉のまき 長きまき 石をぬぐく 庭のまき はまのまき あまのちのまき

石露花

八手花

おきもぬが志をうやうはまのまき
庭のまきもさあやふふ草をうや
あまのちのまきもさあやふふ草をうや
冬州やあまのちのまきもさあ
庭のまきもさあやふふ草をうや
葉のまきもさあやふふ草をうや
長きまきもさあやふふ草をうや
石をぬぐくやえつめや尾をぬぐの降
庭のまきもさあやふふ草をうや
はまのまきもさあやふふ草をうや
あまのちのまきもさあやふふ草をうや

おきもぬが 庭のまき あまのちのまき 冬州 庭のまき 葉のまき 長きまき 石をぬぐく 庭のまき はまのまき あまのちのまき

柀花

おきもぬが志をうやうはまのまき
庭のまきもさあやふふ草をうや
あまのちのまきもさあやふふ草をうや
冬州やあまのちのまきもさあ
庭のまきもさあやふふ草をうや
葉のまきもさあやふふ草をうや
長きまきもさあやふふ草をうや
石をぬぐくやえつめや尾をぬぐの降
庭のまきもさあやふふ草をうや
はまのまきもさあやふふ草をうや
あまのちのまきもさあやふふ草をうや

おきもぬが 庭のまき あまのちのまき 冬州 庭のまき 葉のまき 長きまき 石をぬぐく 庭のまき はまのまき あまのちのまき

水仙や朝と夕の影のなほ静けり
 何處よと地持を嘆くも水仙を
 水仙や舟よ用ふまきこりとの 烟
 水仙や望みゆくの一室の一日は
 人よとを嘆く居るも水仙を
 水仙や薫けり煙さるも水仙を
 水仙や雪をくくりに嘆よき利
 水仙や之く日まきく癖の隙
 家志くまをまきく癖のつや水仙を
 水仙や何や降く降く 朝くく
 水仙や雪まきいふもあらうき
 水仙や朝く 朝く方のおきき

七十一

文好 好山 梅月 五重 暮之 嵩月 布山 不影 友甫 谷海 社風 出権

葱

水仙の暮もちきく 思はくき
 清くくまきくまきく 葱のこまきく
 素足まきくまきく 何のあき 葱畑
 葱はらふ川や朝くくまきく
 葱くくく 朝くくく 音や何のい葱
 葱くくく 降くく 雨よまきく
 洗くくく 市日の色く 葱う水
 葱くく 水くく 一室の光をき
 水く月よ葱めく 人よ葱をく
 水く水よ葱めく 人よ葱をく
 水くく 水くく 水くく 水く引
 寺へ水く 水く 水く 水く 二把

友甫 一屯 台棠 暮右 文起 煙水 肉龍 什布 長文 勇賢 泉湖 河亭

燕

大根引

うら風のやうに入あやうふら汁	九起
解くよふのきこる罫うて大根引	東洲
塩うまうきをのうや大根引	芳山
体よまへんきかへる二又大根引	序重
玄付の一取定——大根ひき	孫産
玄造作あまき茶きひや大根引	藤山
磁人上味の自慢や大根引	吉真母
馬洗ふはゆきしうせう大根引	新山
とろろうふんきききんき大根引	長文
豆をひくく目このたうけう大根引	祖風
引をせを理をうもき大根ひ	和風
里のふれあり——ろろや大根引	

冬至梅

まいりうてやうよ出て引大根うれ	控山
道分をまへ問せうう大根引	秋山
野も遠入日苗や大根引	左乙
山坊まのうま散ちう大根引	杜松
日のよきんききき引大根うれ	孝隆
一瀬あま山根のきやき玉梅	其新
日けうを揚あまき——き玉梅	高傳
とる草のきききききき玉梅	在尔
きめききききききき玉梅	箭古
あまききききききき玉梅	河亭
とや梅やきききききき玉梅	夢里
早梅のうめやきききき玉梅	川流

早梅

冬木立

とも梅や葉休より一輪も垣の
 湯水より菊も柄杓や冬木立
 雪は多く針よあふぬ冬木立
 火を焚くはしるは冬木立
 降る雨よ日のさしは冬木立
 寝るよ静るをあは冬木立
 富士雪よ一変は冬木立
 住とも思ふ山家や冬木立
 旅ゆく旅も風も冬木立
 此頃ハ誰かあは冬木立
 路よ雪よ足もあは冬木立
 花寺のうきは冬木立

竹也哉
 芭蕉
 泉林
 深草
 知芳
 山梨
 立派
 得之
 只松
 竹堂
 寂仙
 茶三

冬牡丹

冬牡丹のゆくゆくは冬牡丹
 雪は多く針よあふぬ冬牡丹
 火を焚くはしるは冬牡丹
 降る雨よ日のさしは冬牡丹
 寝るよ静るをあは冬牡丹
 富士雪よ一変は冬牡丹
 住とも思ふ山家や冬牡丹
 旅ゆく旅も風も冬牡丹
 此頃ハ誰かあは冬牡丹
 路よ雪よ足もあは冬牡丹
 花寺のうきは冬牡丹

卜早
 祖強
 己有
 白長
 如信長
 龜行
 小遊
 芳山
 淳茂
 社松
 友南
 常晴

冬椿

室梅

いつまもむらゝ庭やみづもき
 うら澗やそよ遊むそよ梅
 をつそき咲やあふる人ゆれき
 物たりぬををそよそよつそ梅
 余のあふそよ梅たる也そ梅
 昔よあふるそ梅のあそ梅
 一里んのそよそよ梅の梅
 ちの梅は庭うつそそそ梅
 咲くちの梅のそよそ梅
 うらうらそよそ梅の梅
 海花は社氏あつそ梅の梅
 笑つそよの梅あそ梅の梅

己有
 荳廣
 鬼一
 飛打
 理用
 鳥池
 陸侯
 梅梅
 希壽
 梅泉
 久益
 秋女

冬梅

うらうらあつそ梅の梅
 一梅もあふそ梅の梅
 咲つそよあつそ梅の梅
 うらうらあつそ梅の梅
 うらうらあつそ梅の梅
 うらうらあつそ梅の梅
 うらうらあつそ梅の梅
 うらうらあつそ梅の梅
 うらうらあつそ梅の梅
 うらうらあつそ梅の梅
 うらうらあつそ梅の梅
 うらうらあつそ梅の梅
 うらうらあつそ梅の梅
 うらうらあつそ梅の梅
 うらうらあつそ梅の梅
 うらうらあつそ梅の梅

素月
 一羽
 由雲
 素梅
 野景
 智函
 瑞兮
 一屯
 新洲
 如山
 鳥之
 善池

さきのうぬふくもあつちあつち梅
 りたつしんあまきはあやあつち梅
 とふんせふも月よ大連一あつち梅
 田んぼのあまのあつち梅
 袖をけぬあつち梅
 障子あつち梅
 桂あつち梅
 障子のあつち梅
 白のあつち梅
 さつち梅
 障子のあつち梅
 一里あつち梅

山方
 遊里
 生花
 文好
 錦袋
 呪袋
 一湖
 至内
 かげ良
 さいあ
 景樹
 柳修

寒梅

日つらつらあつち梅
 雪梅あつち梅
 雪梅あつち梅
 雪梅あつち梅
 雪梅あつち梅
 雪梅あつち梅
 雪梅あつち梅
 雪梅あつち梅
 雪梅あつち梅

雪梅
 梅
 松
 桃
 杏
 李
 梨
 橘
 柿
 栗

千鳥

千鳥あつち梅
 千鳥あつち梅
 千鳥あつち梅

西馬
 道文

川をたがひてゆく 噂もついでに
 ちとゆ 噂も海にわたるに
 夕暮の管 踏をゆく
 飛ぶの鳥もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 海鳴りのときき 噂もついでに
 吹する空も 噂もついでに
 法をさす 噂もついでに
 写すもついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 大川の板を 噂もついでに

陸水
 水遊
 朱種
 希勢
 涼岳
 双岳
 月岳
 河定
 梅月
 岳月

噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに
 噂もついでに 噂もついでに

橋影
 北泉
 遠東橋
 甚山
 北壽
 小徑人
 松九
 蓬今
 綿袋
 友南
 梅幹

冬蝶

冬蠅

初冬の雪や井の氷うら	斤	鱒
初冬の雪や月影を	山	空
初冬の雪や忘れし	松	林
初冬の雪や人のうら	松	林
初冬つゆを日初見	土	雲
初冬の蝶相ほくら	乙	良
初冬の蝶相ほくら	双	岳
初冬の蝶相ほくら	白	介
初冬一日まゆり	号	家
初冬の蝶相ほくら	折	泉
初冬の蝶相ほくら	由	儿
初冬の蝶相ほくら	ト	早

鶯子鳴

温家のまはれ白鳥	一	湖
温家のまはれ白鳥	大	水
温家のまはれ白鳥	旭	
温家のまはれ白鳥	得	暮
温家のまはれ白鳥	徐	蓬
温家のまはれ白鳥	去	溪
温家のまはれ白鳥	呂	月
温家のまはれ白鳥	素	林
温家のまはれ白鳥	友	松
温家のまはれ白鳥	双	岳
温家のまはれ白鳥	川	流
温家のまはれ白鳥	楳	堂

鴛鴦

千鳥やあきほしき門邊に
 無多きや夕日のまを底 志
 さうゆやまゝうゝ人の情なき
 事種恨
 さうゆやあゝら誰のよみ日や
 李浦
 暮ゆや夕日まをまはしく
 晴月
 さうゆやあゝしめをまね細工
 友甫
 船さうまゝあゝしりうまじき
 葉書
 岸上風あらしをその海をう
 南溪
 くらあゝうづの隔をうまをうの中
 旭
 河まゝ流るるまゝあゝまをうのま
 水雲
 鴛鴦や叶あゝ人の情まゝまをま

水鳥

千鳥の日を念ふき誓の遊むは
 雲雲ぬまゝしやうあう池のを
 五具
 友語うゝまをまをうをうと誓
 双岳
 秀麗さの何れうまゝ 誓の中
 九成
 をうまをまをうまをうの何れうま
 狂風
 問ふまをまをうまをう人のまをま
 其山
 をうまをまをうまをまをうまをま
 其篇
 千鳥のあゝのうゝまをまをうまをま
 南下
 子をあゝまをまをうまをまをうの中
 定跡
 をうまをまをうまをまをうまをま
 祖師
 水鳥の日よ遊むまをまをうまをま
 為山
 水鳥のあゝのうゝまをまをうまをま
 鬼一

水舟の鐘を六返くやうく舟
 夢をくふ水舟の舟ぬ夜ぬりれ
 水舟の瀬を扱へて海をきり
 水舟や海をくへて夜の時を
 水舟の空舟をきり一羽くぬ
 水舟は水舟をきり海をきり
 水舟も静うよありぬ山の鐘
 水舟や時空をきり山のさめ
 水舟や浮麻島の空よ月の鐘
 人をくく只水舟の時をきり何
 水舟や海をきりつとぬ海にや
 水舟や昔をきりつとぬ海をきり

双岳
 山子
 志静
 志静
 雪負
 左乙
 尾村
 雪室
 高松

浮麻島

水舟や舟ようの舟をきり海を
 水舟の海ありつとぬ海をきり
 水舟は水舟をきりつとぬ海を
 水舟も静うよありぬ山の鐘
 水舟や時空をきり山のさめ
 水舟や浮麻島の空よ月の鐘
 人をくく只水舟の時をきり何
 水舟や海をきりつとぬ海にや
 水舟や昔をきりつとぬ海をきり

雪英女
 山子
 志静
 志静
 雪負
 左乙
 尾村
 雪室
 高松

小鴨

ちりせむの風をわたりし浮麻草
 浮麻草入おつそひのそり
 濃よちのききもよせまうし浮麻草
 浪をりくしうしそをのりきひ静
 お海一まのそりし浮麻草小鴨うれ
 ね風よあつそりうしそひのそり
 ねあつし小鴨のそりそりそり
 ぬもあつし海をそりそり小鴨うれ
 にはりしそりし風をそりしそり
 めりあつしそりそりそり小鴨うれ
 ぬりそりし風よあつしそり小鴨うれ
 入りあつしそりそりそり小鴨うれ

松史
 祖領
 梅祥
 得之
 李朔
 内龜
 壹破
 己有
 分字
 龜汀
 由几
 東法

鴨

濃よあつしそりうしそひのそり
 浮麻草入おつそひのそり
 日よあつしそりそりそり小鴨
 鴨うれそりそりそりそり月
 へのそりそりそりそり小鴨
 鴨うれそりそりそりそりそり
 ねりそりそりそりそりそり
 鴨うれそりそりそりそりそり
 新よあつしそりそりそりそり
 鴨うれそりそりそりそりそり
 夫よあつしそりそりそりそり
 鴨うれそりそりそりそりそり
 入りあつし鴨のそりそりそり

其二
 松史
 友甫
 旭峰
 末公
 双岳
 舟登
 陸世
 芳古
 芳月
 由之
 松史

米のくせくせくせく月のけり鴨の色
波の中をくせくせくせくおやうのき
鴨もくせくせくせく海へ舟
鴨もくせくせくせく舟の家根
うねりくせくせくせく鴨の鼻
代りくせくせくせくも若く月
をくせくせくせくせく舟のき
おのくせくせくせくせく池の鴨
岸サくせくせくせく鴨のけり
鴨もくせくせくせくせくおの月
鴨もくせくせくせくせくせく

几後
友甫
呂舟
素山
雪山
船雪
と白
賈舟
友相
新剛
峰秀
菅廣

之きのくせくせく月
鴨のきくせくせくせく海へ舟
おのくせくせくせくせく池の鴨
鴨もくせくせくせくせくおの月
をくせくせくせくせく舟のき
おのくせくせくせくせく池の鴨
岸サくせくせくせく鴨のけり
鴨もくせくせくせくせくおの月
鴨もくせくせくせくせくせく

素舟
内龜
若古
若馬
錦袋
若舟
柳舟
宋種
舟雅
油信
之ぬ女
芳心

罽

罽衣は星をくくるとは海の上
寝て世を友なりき夜守りての事
ゆめ罽をさうさうとらねりぬ
罽衣は露のうすしけしとらぬ
罽衣は時刻はつとぬ舟の音
罽衣は家の結灯のよゝさ
罽衣は小雪の中や信の深
罽衣は日和を待つふ月の暈
罽衣は夕べのさうのそと舟
罽衣は夜をゆくよさる細代の家
世の人をりしるをけりてあらぬ

雪室
かほ
白羽
布山
其骨
波路
山香
弁堂
其骨
旭
根糸
徐蓬

柴漬

細代家

細代守

時々くもきぬおちり細代守
細代守日暮を向て歌り
思ふ情を何とぞとらぬ
まぢつとよ風をいへり
白く衣をまのせとらぬ細代守
罽のぬい何をまのせとらぬ
くくるとは雪はほろり
細代守くくるとは雪はほろり
高きまの田柳も果てし
衣をまのせとらぬ細代守
寝起よと風を友とらぬ細代守

心星
風柳
蟻足
姓糸
篤之
抄目
白外
蒼与
茶古
巨権
善化
後傳

氷魚

子魚の冬に凍る魚を氷魚と云ふ
加茂

乾鮭

鮭を干して食する魚を乾鮭と云ふ
加茂

生海鼠

海鼠の生きたものを生海鼠と云ふ
加茂

鱈

鱈の生きたものを鱈と云ふ
加茂

鯨

鯨の生きたものを鯨と云ふ
加茂

鰯

鰯の生きたものを鰯と云ふ
加茂

鯨 鱈

鮫汁は稚もほろもきも持一宿
 喰うらぬ人のを赤くは河豚の味
 なくけや蟹白をまきまき人あはれ
 とはゆえん一人のまきまきやうけ
 海鳴りのけりや鱈を赤くは
 鱈を赤くはまきまき一樽のつま
 持鱈を赤くはまきまき舟のまきま
 高知のけりや鱈を赤くは
 けりや鱈の目れりや鱈を赤くは
 鱈を赤くはまきまき舟のまきま
 長のけりや鱈を赤くは

桑原 庵
 足川 橋
 分字 樹
 李朝 嘉
 嘉正 南
 吳城 有
 有川 長
 長傳

鮫汁は稚もほろもきも持一宿
 喰うらぬ人のを赤くは河豚の味
 なくけや蟹白をまきまき人あはれ
 とはゆえん一人のまきまきやうけ
 海鳴りのけりや鱈を赤くは
 鱈を赤くはまきまき一樽のつま
 持鱈を赤くはまきまき舟のまきま
 高知のけりや鱈を赤くは
 けりや鱈の目れりや鱈を赤くは
 鱈を赤くはまきまき舟のまきま
 長のけりや鱈を赤くは

桑原 庵
 足川 橋
 分字 樹
 李朝 嘉
 嘉正 南
 吳城 有
 有川 長
 長傳

鯨突

暖の鳥

寒苦鳥

鯨つゝ舟に信りて 供きうめし
 人の身をいよむ日迄を 鯨つき
 相違ふぬきくも けりや 鯨突
 月のけりく人 飛りぬくめり
 ぬくめり 情志を 杖しり
 うむき 月を 照らすや 暖の鳥
 飛ぶとす 明けを ぬくめり
 おもふ 遠くも 飛ぶとす 暖の鳥
 明星の 光も 走りけりぬくめり
 風吹ハ 毎よ 夜に ぬくめり
 動くものも 夜に ぬくめり
 日のけり 煙より 寒苦鳥

五傳
 新甫
 卜早
 持山
 環甲
 音川
 露江
 吳之
 征風
 五風
 強お

梟

木鬼

人の身終り人もの 何れを 寒苦鳥
 及ふに 何れを 寒苦鳥
 月の入る 何れを 寒苦鳥
 阿の夢よ 寒苦鳥
 火を 寒苦鳥
 寒や 寒や 寒や
 寒や 寒や 寒や
 木鬼 寒や 寒や
 牛鬼 寒や 寒や
 木鬼 寒や 寒や
 木鬼 寒や 寒や
 木鬼 寒や 寒や
 木鬼 寒や 寒や

和風
 兜裏
 泉湖
 露江
 馬堂
 峰風
 祖紹
 久菜
 水遊
 古棠
 旭
 荏唐

凍蝶

明きくちむらさきつゝえき木鬼の巻
 木鬼あぐや葉の針の窓の表
 馬二軒あけの葉や木鬼の髪
 木鬼あぐやねるよき塔の影
 木鬼あぐや雲をほくぬくさうさ
 とつゝのまのしゝしゝるやの静
 通風の門もまのりて木鬼の音
 木鬼あぐやまゝ何のまゝ問はる
 木鬼あぐや葉の葉もあぐやまゝ
 みづつとや人持ほくやあぐやま
 凍蝶のあぐやあぐや命こゝれ
 凍蝶のあぐやあぐや命こゝれ

葉之
 狂風
 圓月
 梅雨
 浮橋
 其影
 雪相
 葉香
 春池
 好之
 好以
 冷相

冬鳥

冬鴈

夜興引

耳よまをこゝろて字やあがり
 日影をよ水屋よあがりやあがり
 枝のあがり樹よあがりあがり
 雪よあがりあがりあがりあがり
 あがり人もあがりあがりあがり
 あがりせよあがりあがりあがり
 あがりあがりあがりあがりあがり
 あがりあがりあがりあがりあがり
 あがりあがりあがりあがりあがり
 あがりあがりあがりあがりあがり
 あがりあがりあがりあがりあがり
 あがりあがりあがりあがりあがり
 あがりあがりあがりあがりあがり

狂因
 小遊
 粵川
 久業
 内庭
 己有
 李補
 唾松
 油漬
 書後
 紅銀
 正有

鷹匠	鳥叫	力草	熊突
鷹匠の業もやいさ身の上は	鳥叫や鳥の鳴るや西のり	力草はくも伸くも下力叫	熊突のそ尾うらふ黄犬は
かた	唐負	ト卑	和風

鷹野	鷹狩	鷹
鷹野の煙をけりや川岸の家	鷹狩や夜鳴く山は空を	鷹のうらむをきぬのり
素雄	素竹	素山

雨	傾城	竹	鶴	龜
降やうよううや雨の四季よ名も さかぬわづらのあまのりるのき 傾城はものまやうやるを我世うぬ 竹やあのみつゝいよまふこゝろより 雨やや竹を新の志まゝる 鶴はたつとをのうけそまゝ 雪は残るぬしつゝ鶴の籠うぬ 浮しらのむるぬぬいそんあうく	ト早 かき 掛珠 尾村 祖紹 由登 尾村 祖紹			

江都書林

下谷御成道

青雲堂英文藏板

小學本註 二冊	增補文語碎金 二冊	八面鋒 四冊
扶桑蒙求 三冊	宋名家詩選 二冊	晚唐百家絕句 五冊
題画詩類鈔 二冊	香篋集 一冊	和歌題百絶 一冊
三大家絕句 一冊	蜀山先生詩集 一冊	東征稿 二冊 西上記
漫遊花草 五冊	昔々春秋 一冊	酒中趣 二冊
左傳凡例考 一冊	左傳比事 一冊	歲華一枝 一冊
歲華一枝拾遺 一冊	名乘字引 一冊	名乘字彙 一冊

略註五經字引	一冊	篆書字引	一冊	易學小筌	一冊
書家必用	一冊	書家錦囊	一冊	書家便覽	一冊
古韻通叶	一折	醫書之部			
痘疹戒草	三冊	治痘要方	一冊	治痘要方補遺	一冊
治痘要訣	一冊	痘疹養生訣	一冊	痘瘡食物考	一折
保嬰須知	二冊	續痘科辨要	三冊	種痘辨義	一冊
雜書之部		方函	二冊	日養食鑑	一冊

三省錄	五冊	世事百談	四冊	瓦礫雜考	二冊
東汴倉百首	一冊	子昂真草千字文		子昂龍興寺碑	
隸書醉翁亭記		蘭竹畫譜	二冊	竹沙小品	一帖
光琳百圖	二冊	光琳百圖 <small>後編</small>	二冊	光琳百圖 <small>後編</small>	二冊
畫圖撰要	三冊	一蝶畫譜	三冊	蕙齋略畫	二冊
刀釵圖考	一冊	刀釵圖考 <small>二篇</small>	一冊	裝劍備考	一冊
鞍鐙圖式	一冊	甲冑着用辨	二冊	貞丈家訓	一冊
田畑調法記	二冊	百姓袋	一冊	按孔方圖鑑	一冊

珍錢奇品圖錄	一冊	古錢鑑	一冊	佛鬼軍	一休一冊
三更一心記	一冊	日蓮御代記	一冊	善惡種蔕和讚	
八部拔講釋	一冊	曆日講叙	一冊	將棊圖式	一冊
歌書之部					
貫之集類題	二冊	<small>香川景樹集 桂の落葉</small>	二冊	<small>海野遊翁詠 柳園家集</small>	二冊
千町拔穂	一冊	園圃拔菜	二冊	萬葉用字格	一冊
靈能一貫	二冊	源氏物語系圖	一折	<small>手柄岡持狂歌狂文 家おろろ</small>	二冊
蜀山百首	一冊	仮名類纂	一冊	<small>竹村茂枝集 穂向屋集</small>	三冊

俳諧之部					
俳諧故人五百題	二冊	續故人五百題	二冊	掌中故人五百題	一冊
新五百題	二冊	新々五百題	二冊	嘉永五百題	二冊
今人五百題	二冊	續今人五百題	二冊	今人五百題	<small>三篇</small> 四冊
近世五百題	二冊	白雄坊五百題	二冊	<small>過日庵撰 今人百家類題</small>	二冊
<small>過日庵撰 近世十家類題</small>	二冊	名所千題集	三冊	題林鼓句集	四冊
十萬發句集	四冊	乙二七部集	二冊	曉臺七部集	二冊
今七部集	二冊	嵐雪句集	二冊	發句類聚	二冊

御成敗式目	一冊	女今川	一冊	女雅俗要文	一冊
千字文	一冊	消息詞	一冊	庭梅帖	一冊
梅澤先生手本向		庭訓往來	一冊	風月往來	一冊
風俗文選拾遺	二冊				
俳諧四季草	四冊	安政五百題	二冊	類題金玉集	四冊
一葉集	五冊	一葉集	四冊	俳諧集草	十六篇
俳諧寐琴	二冊	饒舌錄	二冊	名家類題	四冊
發句古今撰	二冊	蒼虬翁句集	二冊	今人發句集	二冊

新三十六歌仙	一帖	雪後帖	一帖	新撰詩歌合	一冊
續撰朗詠集	二冊	實語教童子教	一冊		
諸流手本向					
尊圓古今序	一帖	同真名序	一帖	尊朝瀟湘景	一冊
大橋庭訓往來	一冊	大橋新年帖	一冊	橘正敬庭訓	一冊
正敬商賣往來	一冊	蓮池堂法帖	一帖	瀧本芳野道記	一冊
瀧本鴻書帖	一冊	雜書并繪入物之部			
		雅俗要文	一冊	諸國書狀指	一冊

教訓圖會 <small>前後</small> 二冊	皇朝三字經 一冊	繪本國恩俚談 一冊
大學笑句 一冊	裁縫早手引 一冊	米錢胸算用 一冊
每朝神拜小言 一折	<small>式亭三馬作 小野馬鹿村</small> 一冊	<small>十返舎一九作 附會案文</small> 一冊
<small>山東京傳作 滑稽文選</small> 一冊	安見道中記 一冊	唐王名所の繪 一枚
甲越勇士鑑 <small>前後</small> 二冊	諸職雛形 一冊	花鶴百人一首 一冊
女大學玉文庫 一冊	女庭訓往來 一冊	



天下登龍丸 會物一切
一色代百文
一巡り代六百文

秋登龍丸、天下一方我家の秘法にて、痰咳留飲一通りの妙薬
 あり、存心十年、世年痰咳、咳上納痛、立居成がごとく、又留飲
 氣をふく、胸痛、夜も寐も成らざる、種々、症を治す、粒
 重き、一巡り、数年、来の難症、三巡りも用ゆる時、忘せざる、如く
 痰を治し、咳を止め、留飲、胸を開き、病全し、いゆる、多量
 は、是より、固て、心氣の、腹を、補ひ、血を、巡りし、脾胃、胃、成
 調へ、氣力を、ほし、考を、立、云、舌、舌、舌、の、よ、良、考、を、考、一、症、病

延命の事 救万人用して試て生切の天あるる古今に
双希代不思儀の妙薬之生切友の志も此

- 一 十軍女軍端息
- 一 一勞症の咳
- 一 引風の咳
- 一 からせき
- 一 咽喉せうつき
- 一 痰飲取法考出
- 一 痰血の交里
- 一 痰飲吐ても出せ
- 一 動気はく心忡
- 一 小兒百日咳
- 一 婦人産後後の咳
- 一 留飲を胸痛
- 一 留飲を氣重
- 一 此外痰咳留飲より起る病一切はし
- 一 苦老をけはのふ人時用ゆる時を考をきるるの奇妙
- 一 抑痰咳の茶苦より清の毒物より多く量茶より変るる何して

引れよ痰咳ハ云々及ぶに痛癢近も速よある松よらして
 引れよ痰咳留飲の二病に治難き者也此は秋堂就丸を
 集之りも痰咳留飲をて医療ををけくし百薬を司るる
 治難き難症よても速よ治ま茶茶予が家の名法よて万人
 を救めて試しよ一人にして治せざるは後天下を其の薬業
 よて他は難あり志何あから生切能速あるるに下し薬業
 婦人産後後の咳し害なきを知らし能く用ひ
 偽なき名法あるるを知らし尤印よは後及茶茶より白
 色紙ホの味より上左よ志よと取次文よて出来て下り

東叡山御書物所

江戸下谷御成道
青雲堂英文藏製

京師之東通	出雲寺文次郎	奥田仙臺	伊勢屋東吉郎
大坂人形橋	河内屋茂吉郎	同會津松	伊勢屋東吉郎
信濃吉田	江戸屋五郎	信濃松本	高良屋東吉郎
遠州中泉	涌屋左右助	同善光寺	小掛屋東吉郎
尾張名古屋	永平屋東四郎	上尾吉崎	沢本屋安吉郎
本町七丁目	伊勢屋東吉郎	上総孫浦	鎗田万茂
遠田	天満屋武吉郎	下総多古	土屋勘次郎
下総信原	正文堂利吉郎	甲府杉本	釜屋東吉郎
本町七丁目	須原屋安次郎	越後三条	扇屋七右郎
後府吳後町	久其屋建次郎	同水原	小田島俊吉郎
如呂金澤	八尾屋東吉郎	甲府魚丁	村田屋東吉郎
聖名信光天明	堀越常三郎	聖名安次	万屋利吉郎

小叢菴雅嶺輯

過日菴祖師補授

融之變卜早授

萬延元年春發行

書林

大坂町高橋博善河内屋茂吉郎
 江戸日本橋通三自山城屋信吉郎
 同下谷御成道 英 文藏



Handwritten text in black ink, possibly a signature or date, located in the bottom right corner of the right page. The text is written vertically and includes the characters "五月廿一日" (May 21st) and "吳文" (Wu Wen). To the left of the text is a red seal, and to the right is a black ink stamp.

